配電設備や通信設備に近接して
クレーン作業、工事用足場等をご使用されるみなさまへ

建設用防護管について

株式会社 九電送配サービス

編　　成

Ⅰ．本　　編　…… P 2～P20

Ⅱ．関連法令編　…… P 21～P29

Ⅲ．配電設備編　…… P 30～P63

Ⅰ．　本　編

1　建設用防護管とは …… Ｐ４

2　建設用防護管の取付義務 …… Ｐ５

3　作業現場付近の配電設備 …… Ｐ６

4　建設作業時における電線類との離隔距離 …… P10

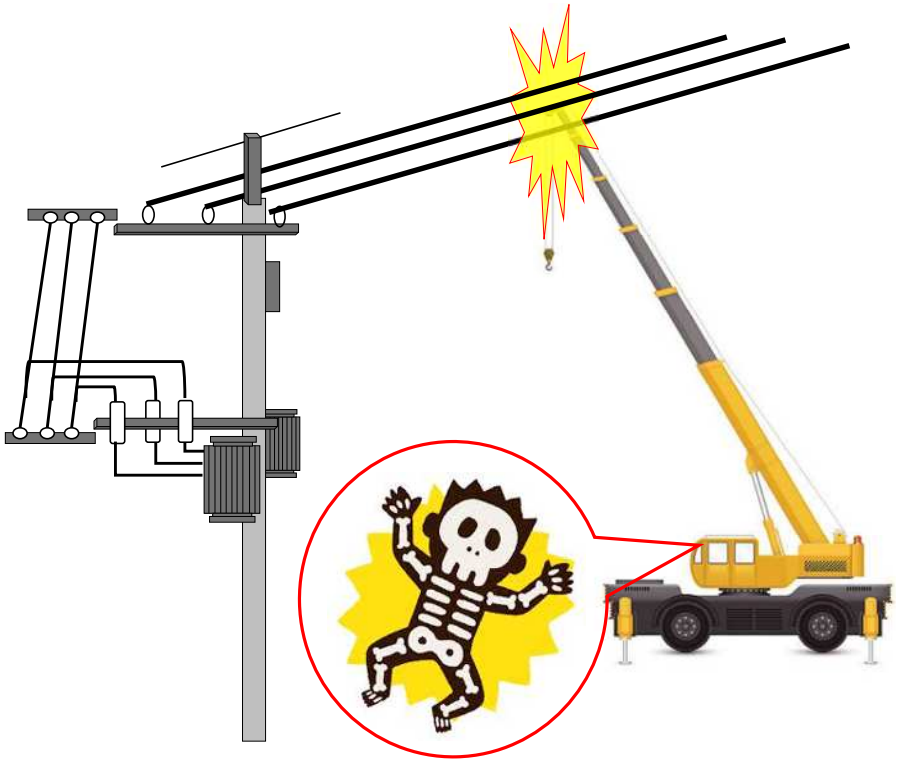
5　建設用防護管取付範囲の判断目安 …… P11

6　建設用防護管類の種類 …… P16

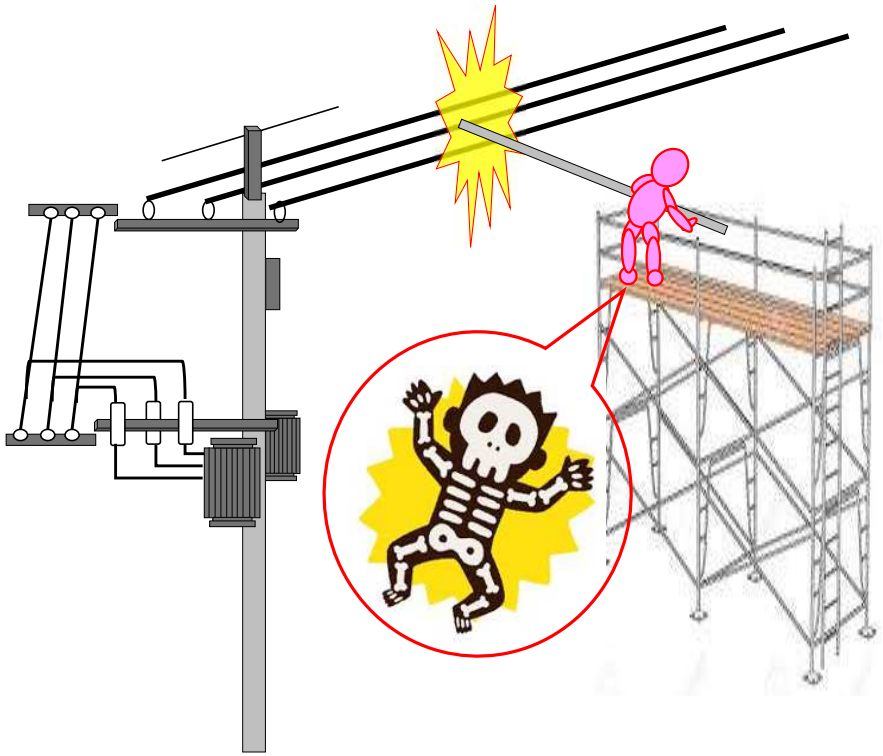
7　建設用防護管類の取付例 …… P17

o 建設用防護管（含む、防護シートほか）は、22ｋV以下の配電線や通信線に接近して建設作業等を行う際の注意喚起（目印）として電線類に取付けるものです。

o なお、建設用防護管は、絶縁性能は有していますが、絶対に作業者が触れたり建設用機械や工作物等が接触しないようにして下さい。



クレーン作業時



工事用足場作業時

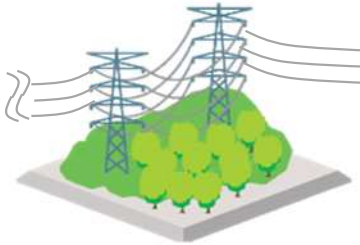
2 建設用防護管の取付義務

労働安全衛生法や建設業法では、事業者に対し、労働災害を防止するための必要な措置を義務づけているんだよ。
配電設備近傍で作業する場合は、感電防止のために、建設用防護管の取付が必要になります。
関係法令の詳細は、「Ⅱ．　関連法令編(P21～P29)」をご覧ください。

※ 配電設備近傍で作業する必要がある場合は、工事日程、防護範囲、取付期間等を明確にして、お早目の申し込み（標準で約３週間）をお願いします。

3 作業現場付近の配電設備

送変電設備



鉄塔・送電線

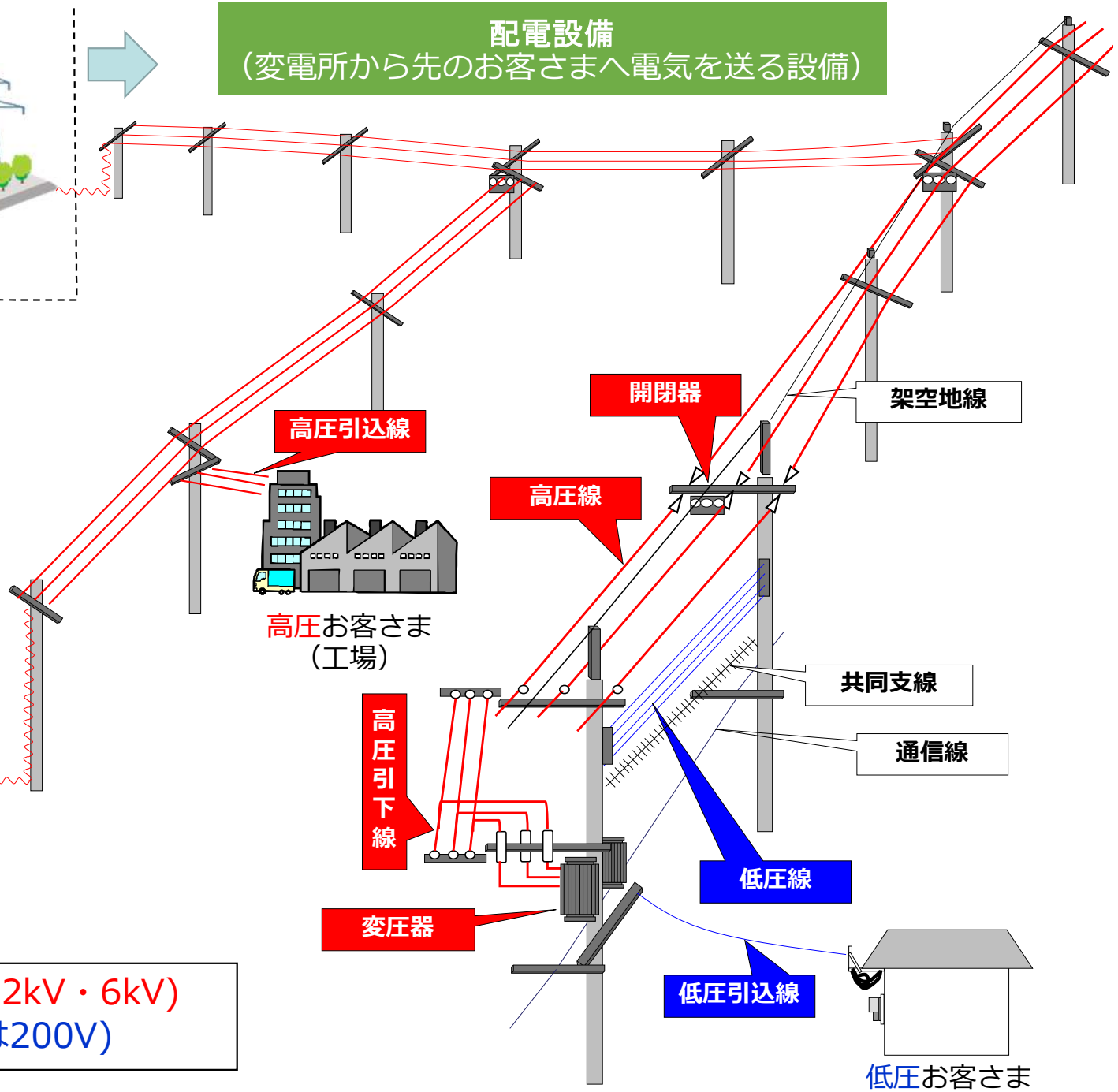
変電所

配電設備
（変電所から先のお客さまへ電気を送る設備）

万が一、高圧線に触れてしまったら、感電だけではすみません。変電所の安全装置が動作し、配電設備の全てが停電するんだよ。広範囲で停電し、社会的に大きな影響を与えてしまうんだよ。

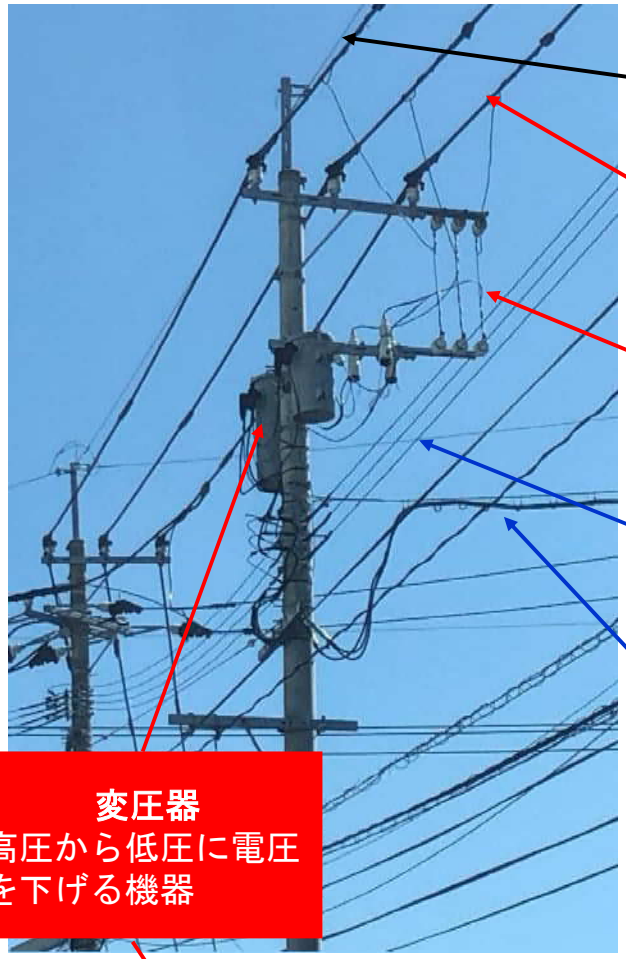
高圧お客さま
（ビル）

高圧お客さま
（工場）



赤線：特高・高圧(22kV・6kV)
青線：低圧(100又は200V)

3 作業現場付近の配電設備



架空地線
雷保護のためのﾜｲﾔｰ

高圧線
６ｋVの電線

高圧引下線
６ｋVの電線

低圧線
200V又は100Vの電線

低圧引込線
一般家庭に電気を送るための200V又は100Vの電線

変圧器
高圧から低圧に電圧を下げる機器

開閉器
高圧電線路を切り分けるためのスイッチ

変圧器

赤色で示した設備は高圧（6600V）だから、特に注意が必要だよ

開閉器

3 作業現場付近の配電設備

共同支線
電柱にかかる張力を支える、電柱間に張るワイヤー

普通支線
電柱にかかる張力を支える、電柱から地面に張るワイヤー

電力通信ケーブル
開閉器の入/切を行う信号を送るケーブル等

他社通信ケーブル
（受付対象外）

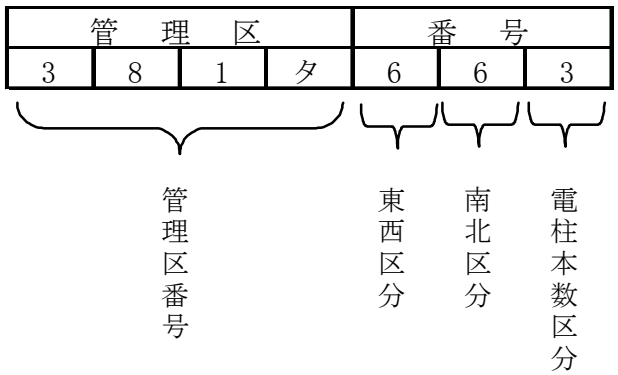
(注)電力通信ケーブルの見分け方は、P53・P54を参照

配電設備の詳細は、「Ⅲ．配電設備編（P30～P63）」をご覧ください

3 作業現場付近の配電設備

〔九州電力送配電の電柱札〕

電柱番号の設定方法



o 電柱を管理するため、電柱の地上２m付近に電柱札（縦24㎝×横8㎝）を取付けています。

o電柱番号とは、電柱を管理する固有の番号のことで電柱番号＝〔管理区〕＋〔番号〕で表現されます。

〔管理区〕

・地形を東西2ｋm、南北2ｋmで碁盤の目状（メッシュ状）に区切った4ｋ㎡を１管理区という

・001～999の番号を付け、電柱数に応じて１管理区を１、４、16等分し、ヨ、ハ～ヘ、ア～テ（オ、コ、ソを除く）を付したものを『管理区』という

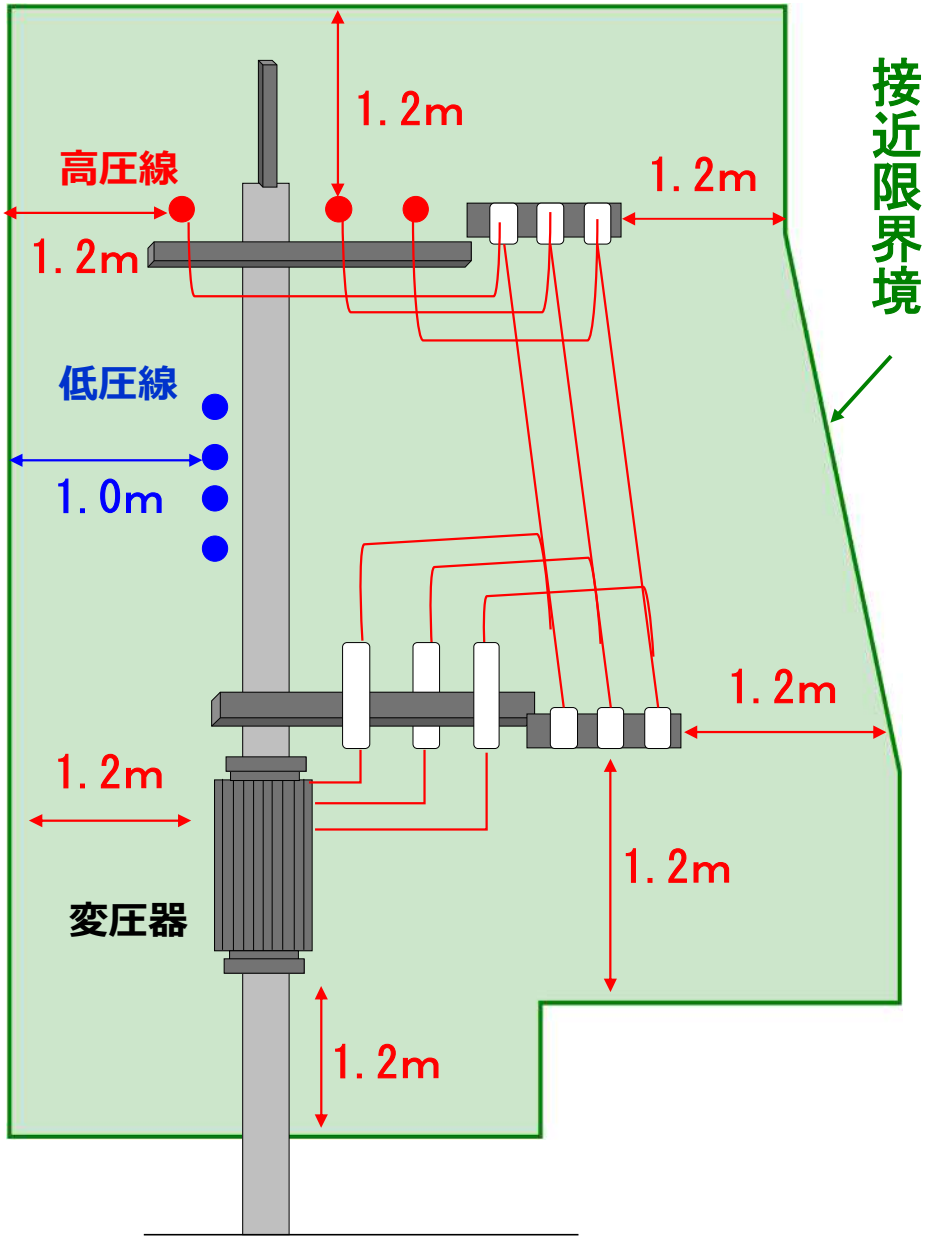
〔番　号〕

・管理区を更に東西、及び南北に10等分した東西区分、南北区分とその区分で区切られた１メッシュ内の電柱本数区分を『番号』という

電柱番号を教えてくれれば、どこにある電柱かすぐにわかるんだよ。申込の際は、この電柱番号を教えてください。

左上の写真の電柱番号は、
３８１タ６６３
（さん・はち・いち・た・ろく・ろく・さん）
と読むんだよ。

4 建設作業時における電線類との離隔距離



電線類との離隔距離

電圧種別	電線路電圧	離隔距離 (接近限界境)
特別高圧	22,000V	2.0m
高　圧	6,600V	1.2m
低　圧	200V、100V	1.0m

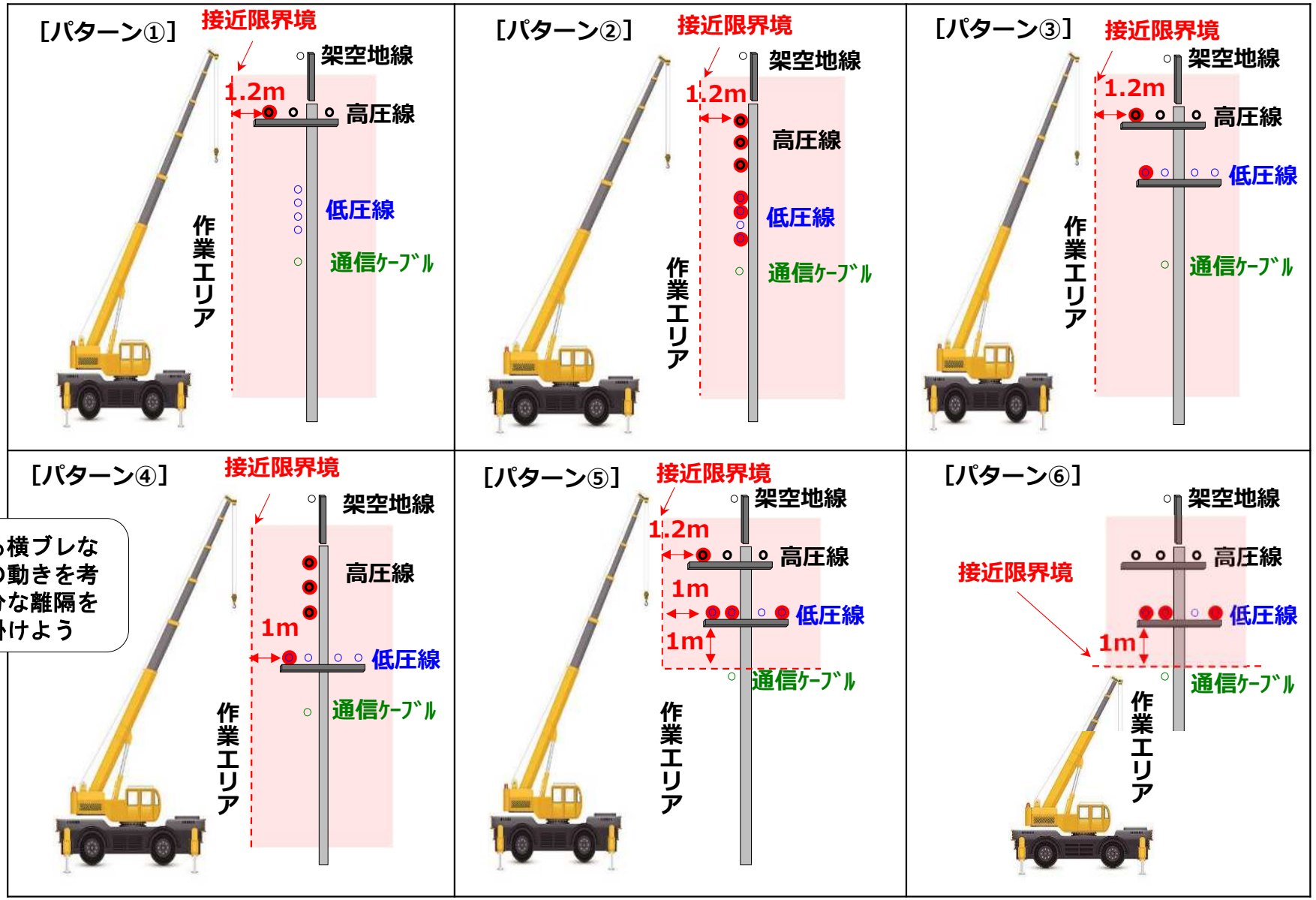
(補足)上表は、「移動式クレーン等の送配電線類への接触による感電災害の防止対策について（基発第759号，昭和50年12月17日）」の値を記載しています。

赤色は高圧線（6600V）、青色は低圧線（100V・200V）です。電気が流れていますので、触れたら危険です。接近して作業をする際は、必ず建設用防護管の取付をお願いします。

5　建設用防護管取付範囲の判断目安

(1) 側面でのクレーン作業

o 接近限界境から電線側に入り込んでの作業となる場合は、建設用防護管の取付が必要になります。
※下図の●マーク箇所は防護管取付の目安

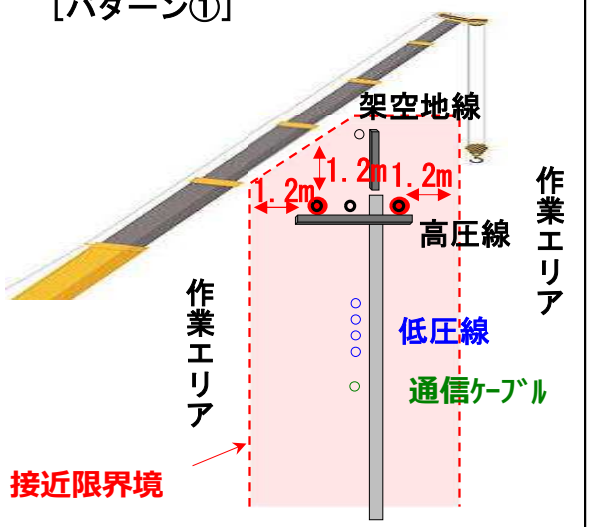


強風による横ブレなど予想外の動きを考慮し、十分な離隔を確保を心掛けよう

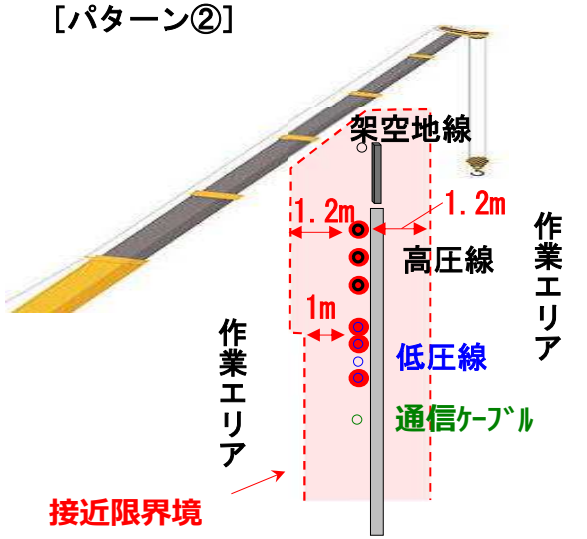
(2) 上越しでのクレーン作業

o 接近限界境から電線側に入り込んでの作業となる場合は、建設用防護管の取付が必要になります。
※下図の●マーク箇所は防護管取付の目安

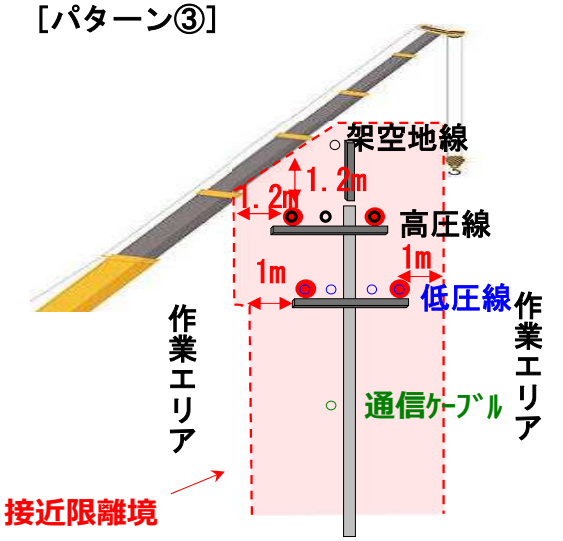
［パターン①］



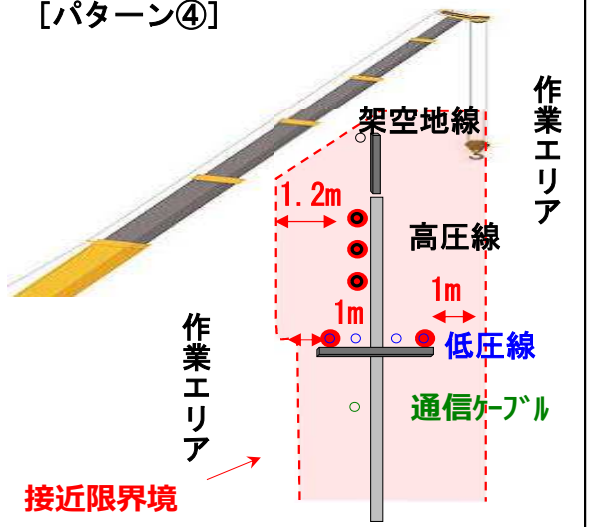
［パターン②］



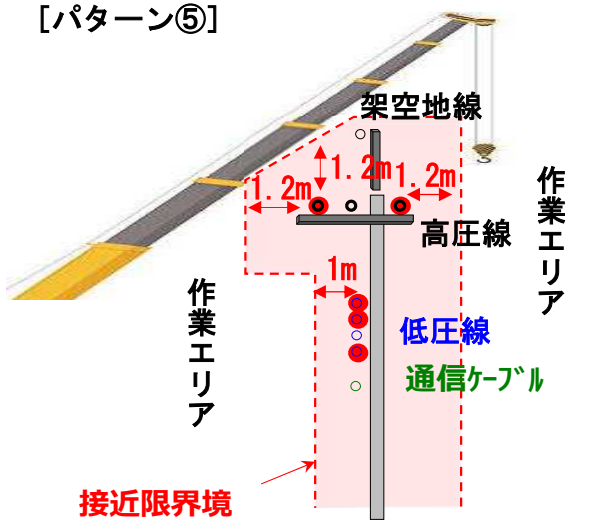
［パターン③］



［パターン④］



［パターン⑤］

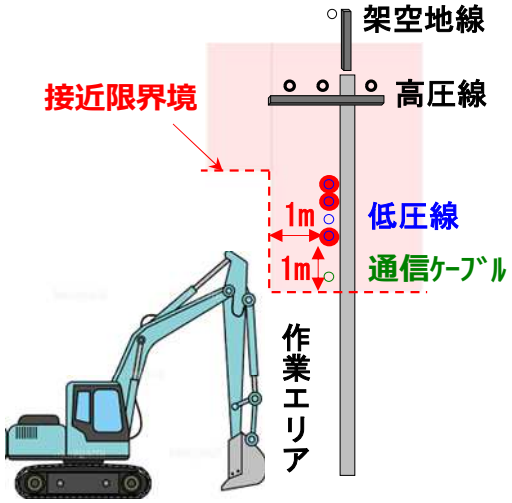


―

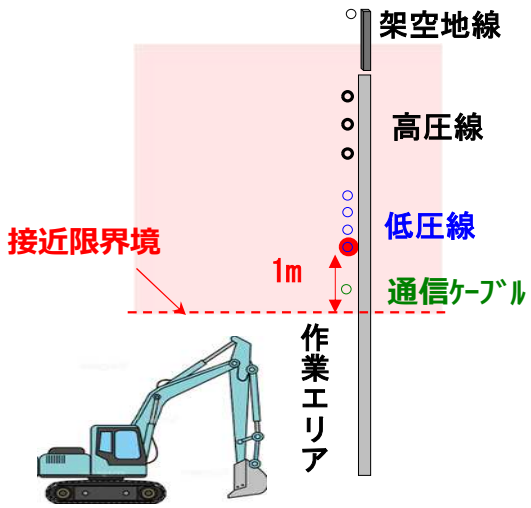
(3) 側面又は下部でのユンボ作業

o 接近限界境から電線側に入り込んでの作業となる場合は、建設用防護管の取付が必要になります。
※下図の●マーク箇所は防護管取付けの目安

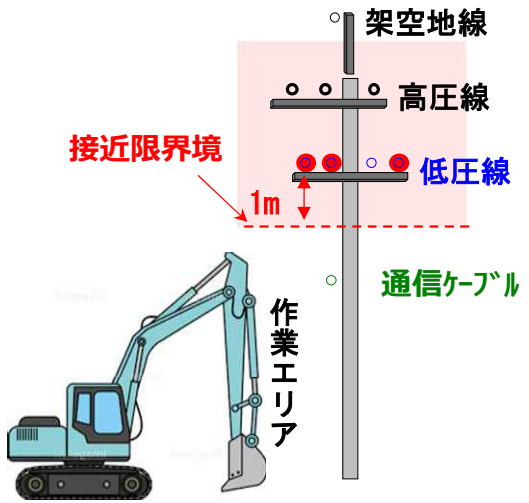
［パターン①］



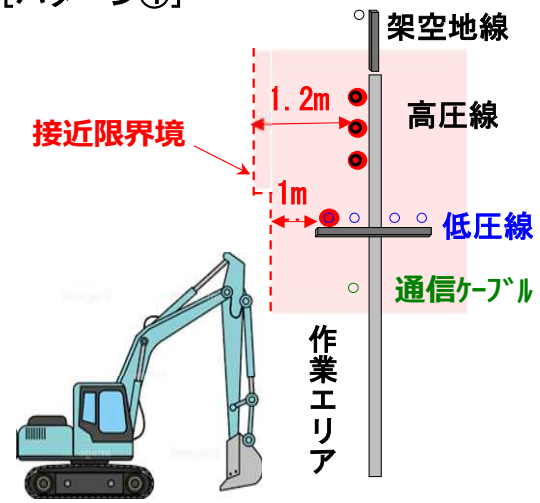
［パターン②］



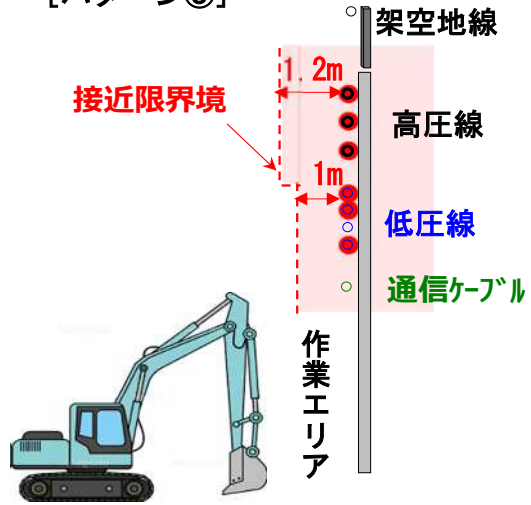
［パターン③］



［パターン④］



［パターン⑤］

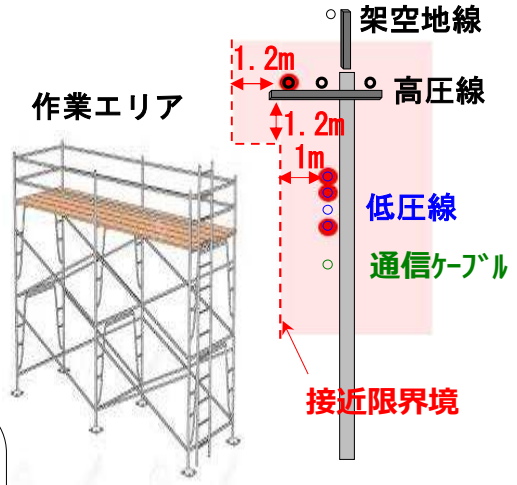


―

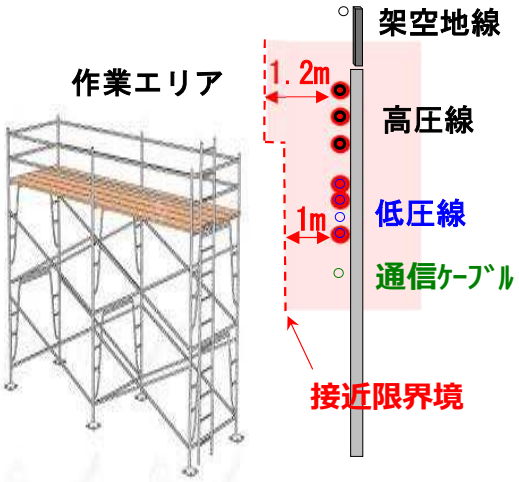
(4) 足場組立作業及び足場上での作業

o 接近限界境から電線側に入り込んでの作業となる場合は、建設用防護管の取付が必要になります。
※下図の●マーク箇所は防護管取付の目安

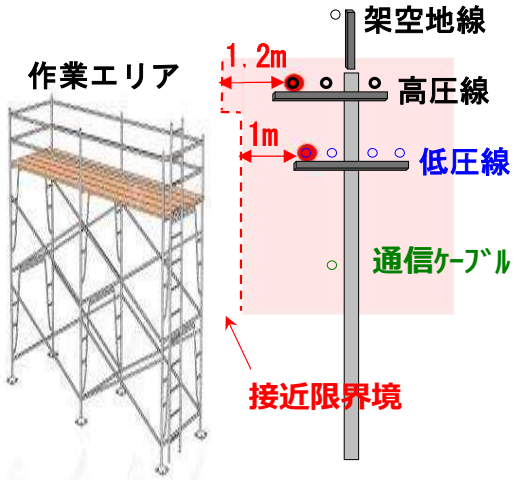
［パターン①］



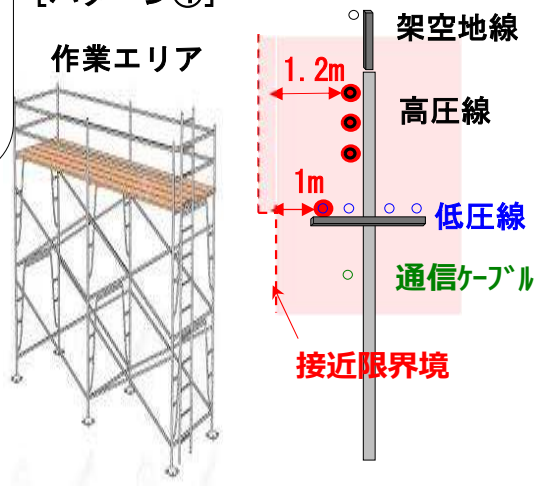
［パターン②］



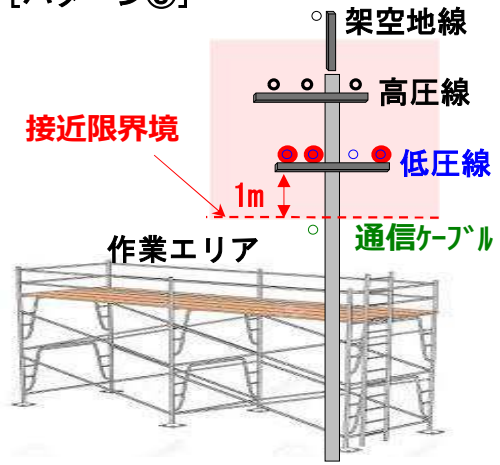
［パターン③］



［パターン④］



［パターン⑤］

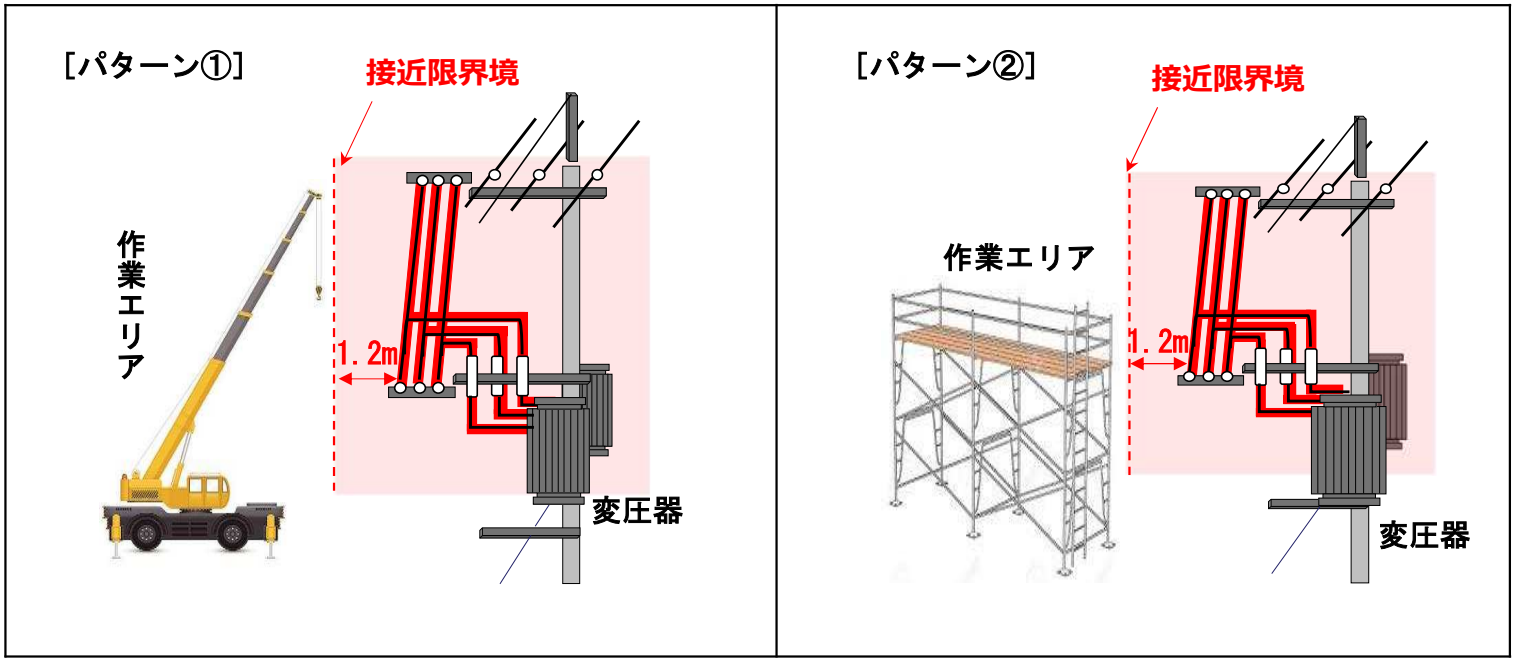


―

作業中や移動中は、作業員との電線との離隔距離を十分確保しよう。
また、足場組立時の鉄パイプの振り回しも十分注意しよう

(5) 変圧器付近でのクレーン作業、足場作業

o 接近限界境から電線側に入り込んでの作業となる場合は、建設用防護管の取付が必要になります。
※下図の●マーク箇所は防護管取付の目安

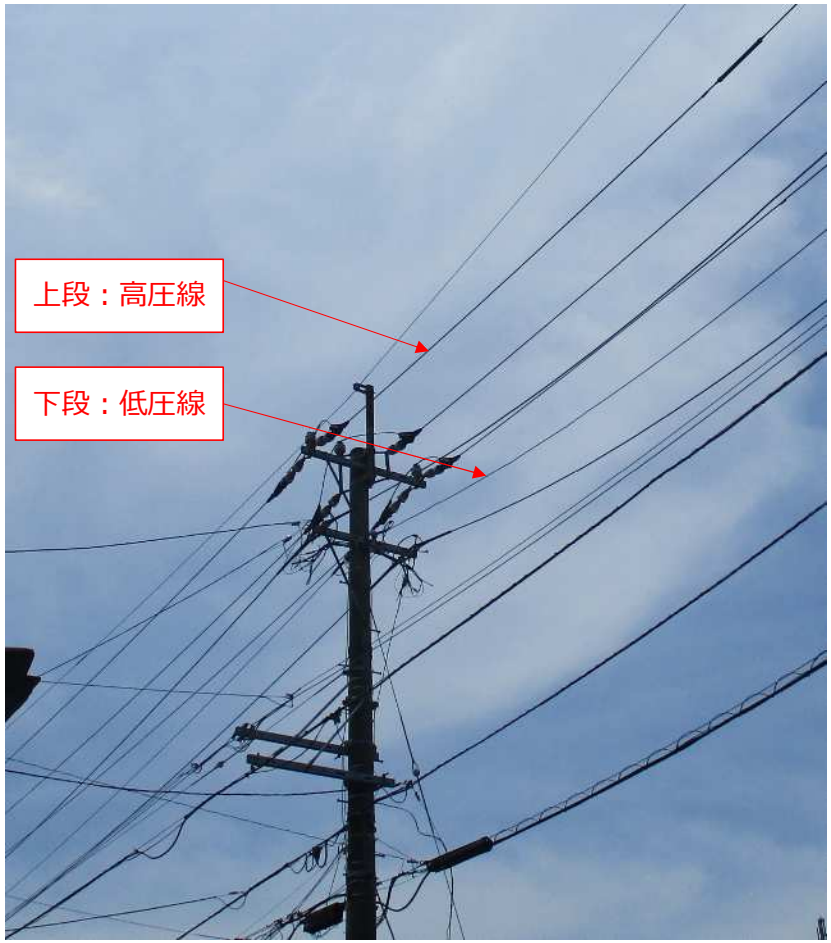
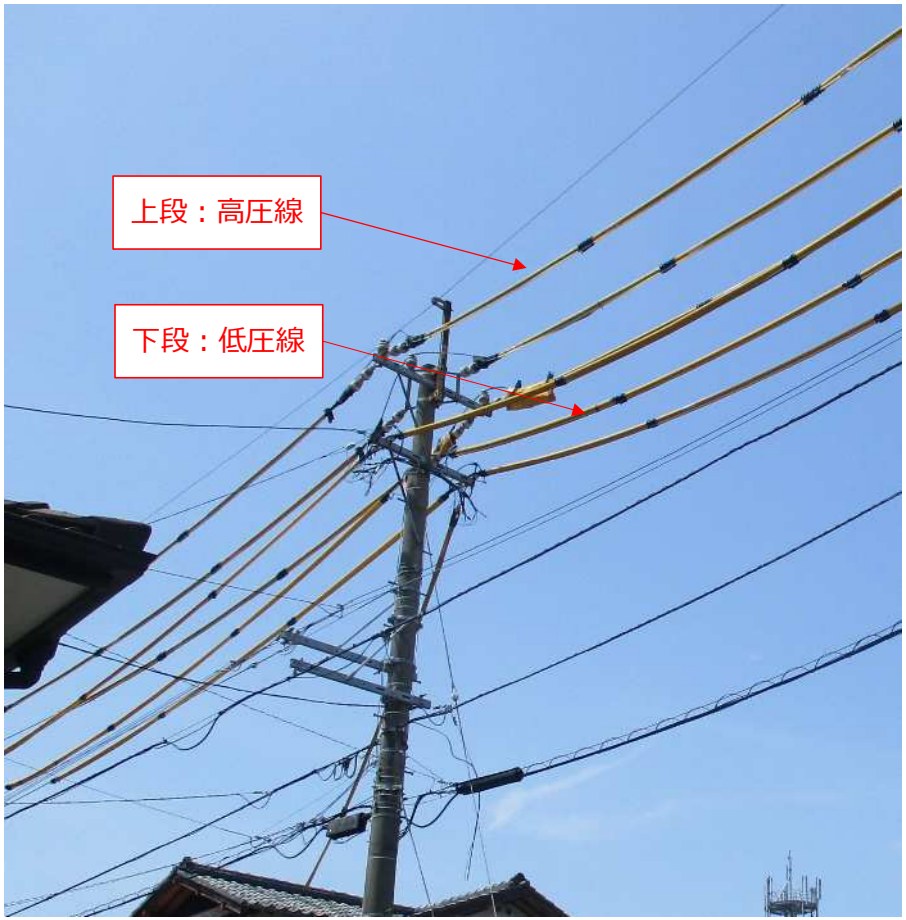


(1) 種　類

名称	① 建設用防護管	② ジャバラポリ管	③ 建設用防護シート
主な 取付箇所	高低圧電線 高圧引下線等	高圧引下線 縁廻箇所等	接続箇所 縁廻箇所等
仕　様	【6ｋV用】 内径：25、35、45mm 長さ：2、3m (注)内径25mmは3mのみ 【22ｋV用】 内径：45mm 長さ：3m	【6ｋV用】 内径：32、45mm 長さ：5m 【22ｋV用】 なし	【6ｋV用】 幅×長さ：500×600mm(小) 500×900mm(大) 【22ｋV用】 幅×長さ：500×600mm
外　観	 (6kV用) (22kV用)		 (6kV用　大) (22kV用)

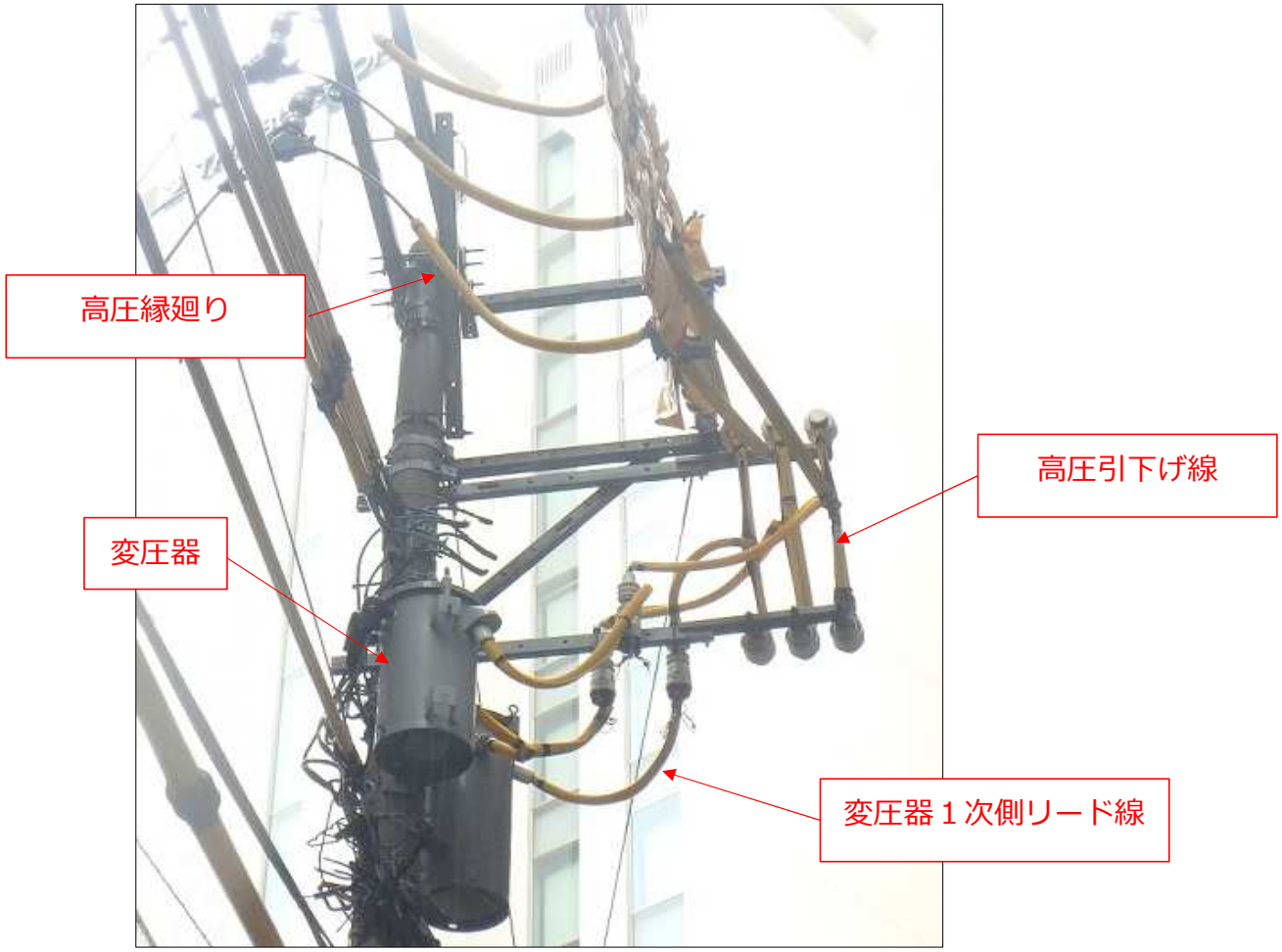
7　建設用防護管類の取付例

(1) 高低圧電線への取付

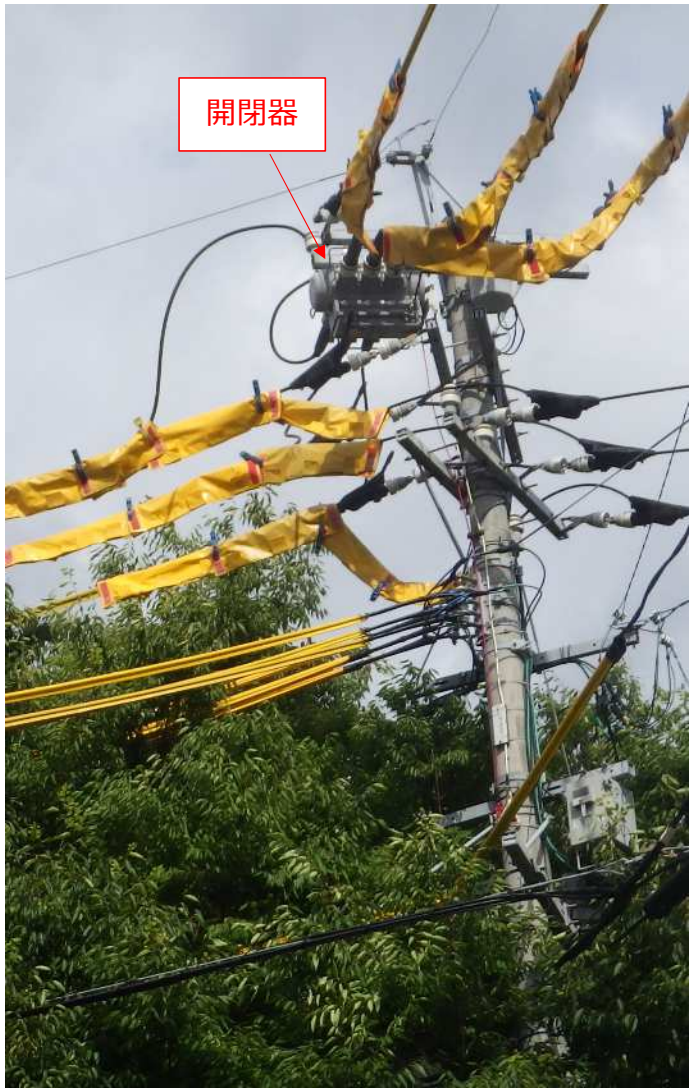
取付前	取付後
	

(2) 変圧器廻りへの取付

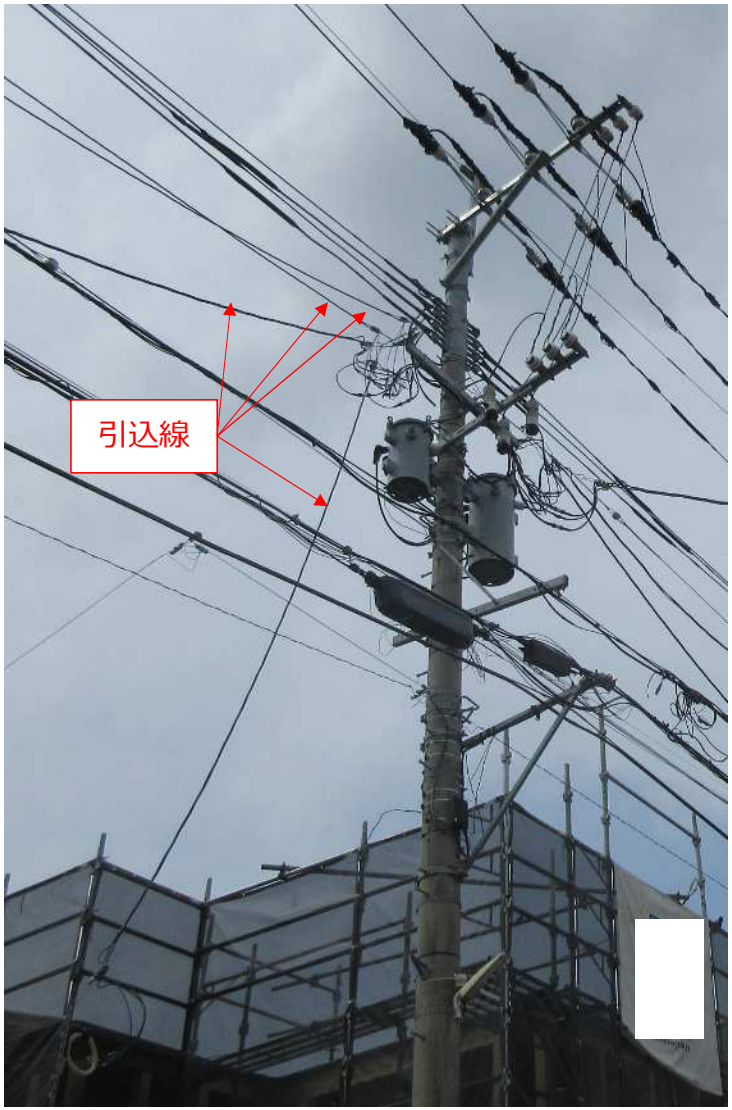
取付後



(3) 開閉器廻りへの取付

取付前	取付後
	

(4) 低圧引込線への取付

取付前	取付後
	

Ⅱ．関連法令編

1 関係法令 …… P 23

2 労働安全衛生法による建設用防護管の取付 …… P 24

3 建設業法による建設用防護管の取付 …… P 27

（１）労働安全衛生法

労働安全衛生法は労働者の安全と健康を確保することを目的としており、この法に労働者の感電防止の観点から事業者が必要な防護措置を講じなければならないと定めている。

（２）建設業法

建設業法は公共の福祉の増進の目的として制定されており、この法に、公衆災害防止に関する事業者の義務が定められている。

■建設用防護管の取付は、感電防止措置として、事業者に義務付けられている

労働安全衛生法

第四章　労働者の危険又は健康障害を防止するための措置

（事業者の講ずべき措置等）

第20条　事業者は，次の危険を防止するため必要な措置を講じなければならない。（中略）

三　電気，熱その他のエネルギーによる危険

第24条　事業者は，労働者の作業行動から生ずる労働災害を防止するため必要な措置を講じなければならない。

第26条　労働者は，事業者が第20条から第25条まで及び前条第一項の規定に基づき講ずる措置に応じて，必要な事項を守らなければならない。

（元方事業者の講ずべき措置等）

第29条の２　建設業に属する事業の元方事業者は，土砂等が崩壊するおそれのある場所，機械等が転倒するおそれのある場所その他の厚生労働省令で定める場所において関係請負人の労働者が当該事業の仕事の作業を行うときは，当該関係請負人が講ずべき当該場所に係る危険を防止するための措置が適正に講ぜられるように，技術上の指導その他の必要な措置を講じなければならない。

労働安全衛生規則

（工作物の建設等の作業を行なう場合の感電の防止）

第349条　事業者は，架空電線又は電気機械器具の充電電路に近接する場所で，工作物の建設，解体，点検，修理，塗装等の作業若しくはこれらに附帯する作業又はくい打機，くい抜機，移動式クレーン等を使用する作業を行なう場合において，当該作業に従事する労働者が作業中又は通行の際に，当該充電電路に身体等が接触し，又は接近することにより感電の危険が生ずるおそれのあるときは，次の各号のいずれかに該当する措置を講じなければならない。

一　当該充電電路を移設すること。

二　感電の危険を防止するための囲いを設けること。

三　当該充電電路に絶縁用防護具を装着すること。

四　前三号に該当する措置を講ずることが著しく困難なときは，監視人を置き，作業を監視させること。

（鋼管足場）

第570条　事業者は，鋼管足場については，次に定めるところに適合したものでなければ使用してはならない。（中略）

六　架空電路に近接して足場を設けるときは，架空電路を移設し，架空電路に絶縁用防護具を装着する等架空電路との接触を防止するための措置を講ずること。

（法第29条の2の厚生労働省令で定める場所）

第634条の2　法第29条の2の厚生労働省令で定める場所は，次のとおりとする。　(中略)

三　架空電線の充電電路に近接する場所であって，当該充電電路に労働者の身体等が接触し，又は接近することにより感電の危険が生ずるおそれのあるもの(関係請負人の労働者により工作物の建設，解体，点検，修理，塗装等の作業若しくはこれらに附帯する作業又はくい打機，くい抜機，移動式クレーン 等を使用する作業が行われる場所に限る。)　(中略)

移動式クレーン等の送配電線類への接触による感電災害の防止対策について
（基発第759号，昭和50年12月17日）

1　送配電線類に対して安全な離隔距離を保つこと。
　移動式クレーン等の機体，ワイヤロープ等と送配電線類の充電部分との離隔距離を，次の表の左欄に掲げる電路の電圧に応じ，それぞれ同表の右欄に定める値以上とするよう指導すること。

電路の電圧	離隔距離
特別高圧	2m ただし，60,000V以上は10,000V又はその端数を増すごとに20cm増し
高圧	1.2m
低圧	1m

3 建設業法による建設用防護管の取付 [1/3]

■建設用防護管の取付は、公衆災害（含む、電気設備の損傷）防止措置として、施工者に義務付けられている

■そして発注者が、その防護経費を適切に確保しなければならないとされている

建設業法

（指示及び営業の停止）

第28条　国土交通大臣又は都道府県知事は，その許可を受けた建設業者が次の各号のいずれかに該当する場合又はこの法律の規定（第十九条の三，第十九条の四及び第二十四条の三から第二十四条の五までを除き，公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成十二年法律第百二十七号。以下「入札契約適正化法」という。）第十五条第一項の規定により読み替えて適用される第二十四条の七第一項，第二項及び第四項を含む。第四項において同じ。），入札契約適正化法第十五条第二項若しくは第三項の規定若しくは特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律（平成十九年法律第六十六号。以下この条において「履行確保法」という。）第三条第六項，第四条第一項，第七条第二項，第八条第一項若しくは第二項若しくは第十条の規定に違反した場合においては，当該建設業者に対して，必要な指示をすることができる。特定建設業者が第四十一条第二項又は第三項の規定による勧告に従わない場合において必要があると認めるときも，同様とする。

一　建設業者が建設工事を適切に施工しなかつたために公衆に危害を及ぼしたとき，又は危害を及ぼすおそれが大であるとき。

二　建設業者が請負契約に関し不誠実な行為をしたとき。（中略）

2　都道府県知事は，その管轄する区域内で建設工事を施工している第三条第一項の許可を受けないで建設業を営む者が次の各号のいずれかに該当する場合においては，当該建設業を営む者に対して，必要な指示をすることができる。

一　建設工事を適切に施工しなかったために公衆に危害を及ぼしたとき，又は危害を及ぼすおそれが大であるとき。

3 建設業法による建設用防護管の取付 [2/3]

土木工事安全施工技術指針（平成29年3月 国土交通省大臣官房技術調査課）

総則

１．目的　本指針は，土木工事における施工の安全を確保するため，一般的な技術上の留意事項や施工上必要な措置等の安全施工の技術指針を示したものである。

第３章　第２節 架空線等上空施設一般

１．事前確認

（１）工事現場における架空線等上空施設について，施工に先立ち，現地調査を実施し，種類，位置（場所，高さ等）及び管理者を確認すること。

（２）建設機械等のブーム，ダンプトラックのダンプアップ等により，接触・切断の可能性があると考えられる場合は，必要に応じて以下の保安措置を行うこと。

① 架空線上空施設への防護カバーの設置

② 工事現場の出入り口等における高さ制限装置の設置

③ 架空線等上空施設の位置を明示する看板等の設置

④ 建設機械のブーム等の旋回・立入り禁止区域等の設定

3 建設業法による建設用防護管の取付 [3/3]

建設工事公衆災害防止対策要綱 ＜土木工事編＞

（令和元年9月2日 国土交通省告示496号）

第８ 公衆災害防止対策経費の確保

１ 発注者は、工事を実施する立地条件等を把握した上で、この要綱に基づいて必要となる措置をできる限り具体的に明示し、その経費を適切に確保しなければならない。

２ 発注者及び施工者は、施工途中においてこの要綱に基づき必要となる施工計画等に変更が生じた場合には、必要に応じて経費の見直しを検討しなければならない。

第34 建設機械の使用及び移動

４ 施工者は，建設機械の移動及び作業時には，あらかじめ作業規則を定め，工事関係者に周知徹底を図るとともに，路肩，傾斜地等で作業を行う場合や後退時等には転倒や転落を防止するため，交通誘導警備員を配置し，その者に誘導させなければならない。また，公道における架空線等上空施設の損傷事故を回避するため，現場の出入り口等に高さ制限装置を設置する等により，アームや荷台・ブームの下げ忘れの防止に努めなければならない。

第36 架線，構造物等に近接した作業

１ 施工者は，架線，構造物等若しくは作業場の境界に近接して，又はやむを得ず作業場の外に出て建設機械を操作する場合においては，接触のおそれがある物件の位置が明確に分かるようマーキング等を行った上で，歯止めの設置，ブームの回転に対するストッパーの使用，近接電線に対する絶縁材の装着，交通誘導警備員の配置等必要な措置を講じるとともに作業員等に確実に伝達しなければならない。

２ 施工者は特に高圧電線等の重要な架線，構造物に近接した工事を行う場合は，これらの措置に加え，センサー等によって危険性を検知する技術の活用に努めるものとする。

建設工事公衆災害防止対策要綱 ＜建築工事等編＞ **（令和元年9月2日 国土交通省告示496号）**

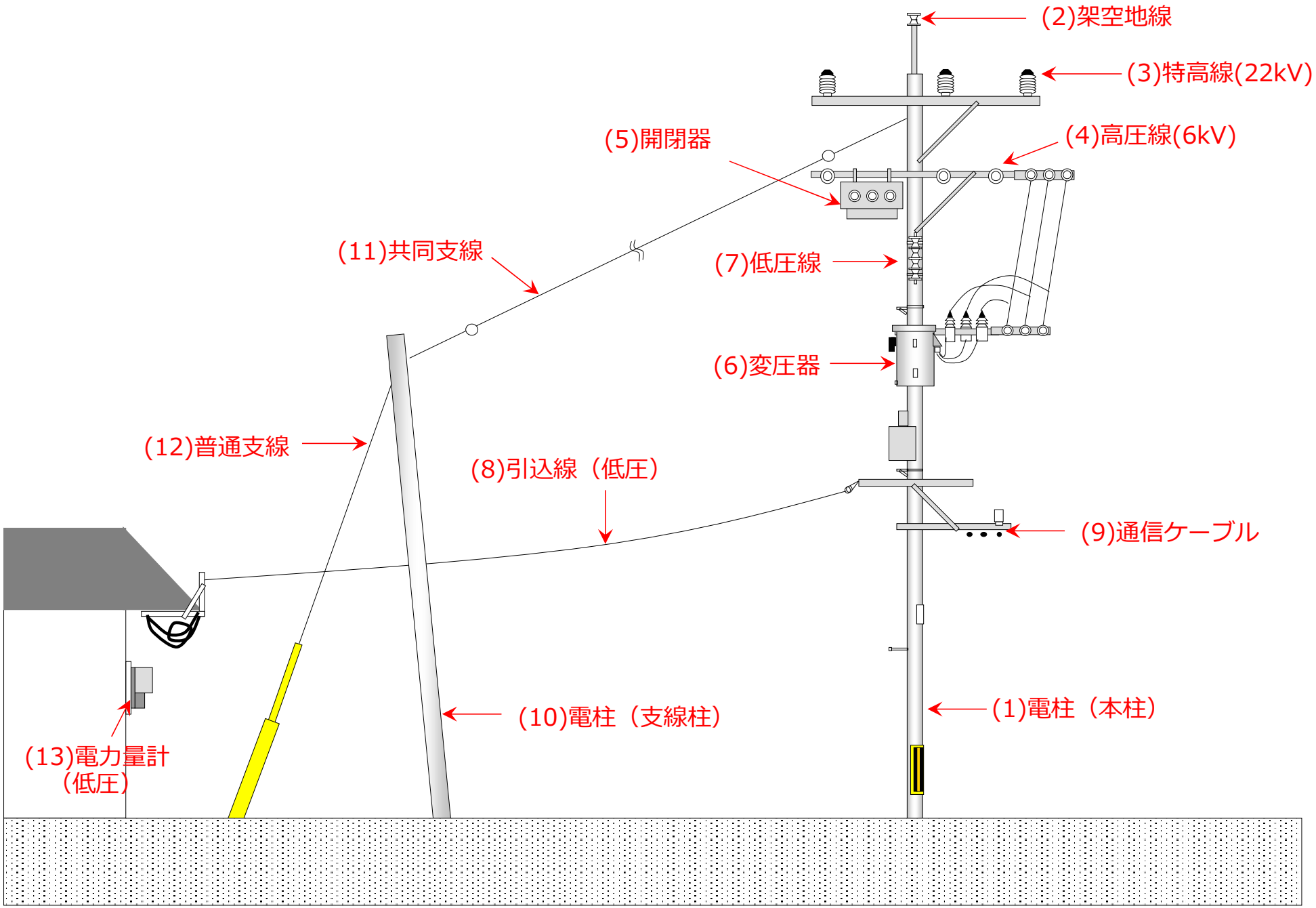
第８ 公衆災害防止対策経費の確保，　第36 建設機械の使用及び移動，
第37 架線，構造物等に近接した作業の条項は、土木工事編と同内容

Ⅲ. 配電設備編

1 配電設備一覧 …… P33
2 配電設備の説明
(1) 電柱（本柱） …… P37
(2) 架空地線 …… P38
(3) 特高線 …… P39
(4) 高圧線 …… P40
(5) 開閉器 …… P44
(6) 変圧器 …… P45
(7) 低圧線 …… P48
(8) 引込線（低圧） …… P50
(9) 通信ケーブル …… P52
(10) 電柱（支線柱） …… P55

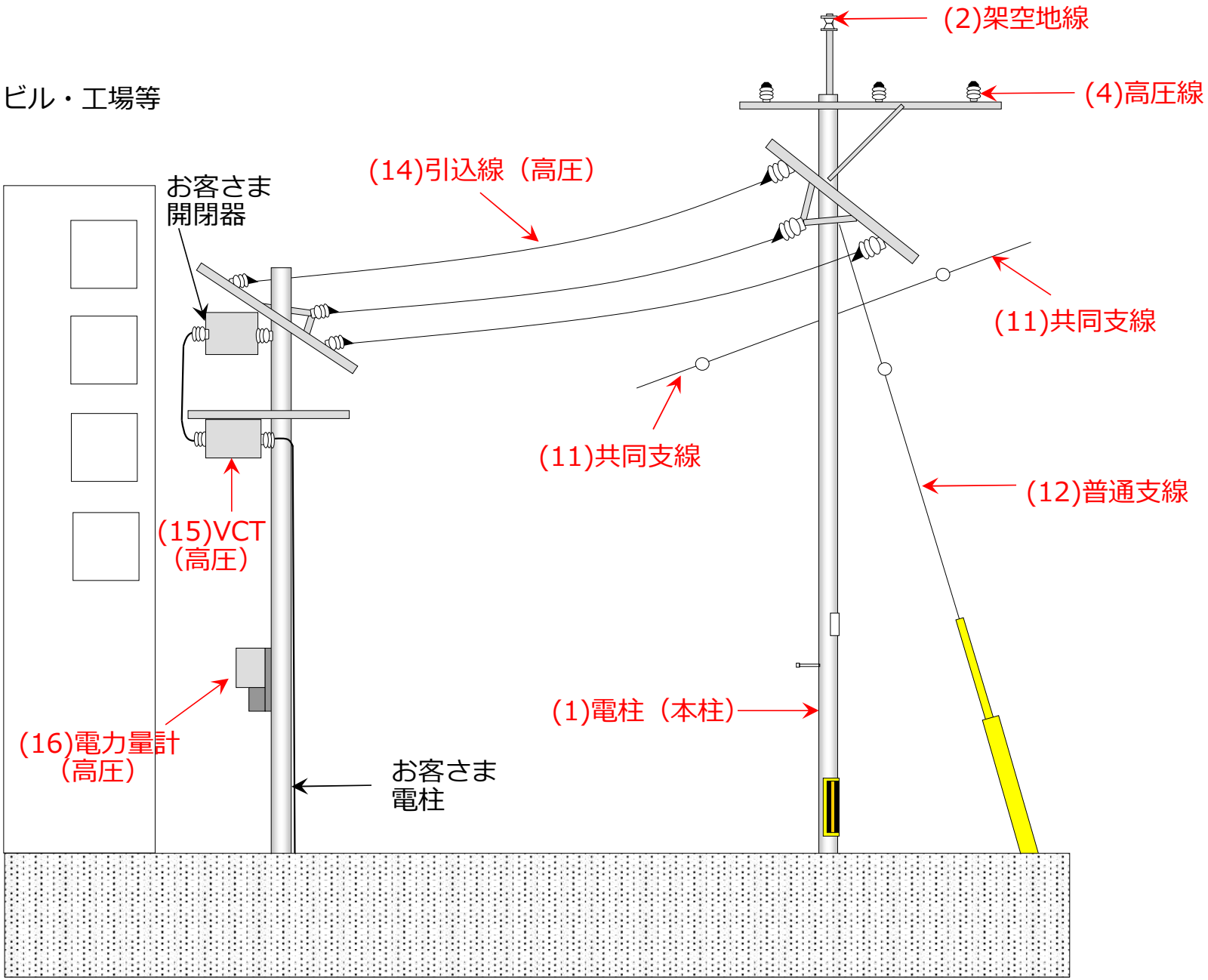
(11) 共同支線 …… P56
(12) 普通支線 …… P57
(13) 電力量計（低圧） …… P58
(14) 引込線（高圧） …… P59
(15) VCT（高圧） …… P60
(16) 電力量計（高圧） …… P62
電線の種類（まとめ） …… P63

1 配電設備一覧〔1/2〕


(2)架空地線
(3)特高線(22kV)
(4)高圧線(6kV)
(5)開閉器
(7)低圧線
(11)共同支線
(6)変圧器
(12)普通支線
(8)引込線（低圧）
(9)通信ケーブル
(10)電柱（支線柱）
(1)電柱（本柱）
(13)電力量計
（低圧）

1 配電設備一覧〔1/2〕

設　　備	説　　明	電気通電の有無
(1)電柱（本柱）	電線等を装柱・架線し、支える柱	なし
(2)架空地線	雷保護のためのワイヤー	なし
(3)特高線	22,000Vの電線（黒色）	あり
(4)高圧線	6,600Vの電線（黒色）	あり
(5)開閉器	高圧電線路を切分けるためのスイッチ	あり
(6)変圧器	高圧から低圧に電圧を下げる機器	あり
(7)低圧線	200V又は100Vの電線（黒・青色）	あり
(8)引込線（低圧）	一般家庭などの低圧お客さまへ電気を送るための低圧電線	あり
(9)通信ケーブル	開閉器の入/切を行う信号を送るケーブル	なし
(10)電柱（支線柱）	共同支線を支える柱	なし
(11)共同支線	電柱にかかる張力を支える、電柱間に張るワイヤー	なし
(12)普通支線	電柱にかかる張力を支える、電柱から地面に張るワイヤー	なし
(13)電力量計（低圧）	低圧お客さまの電気使用量を計測するための装置	あり

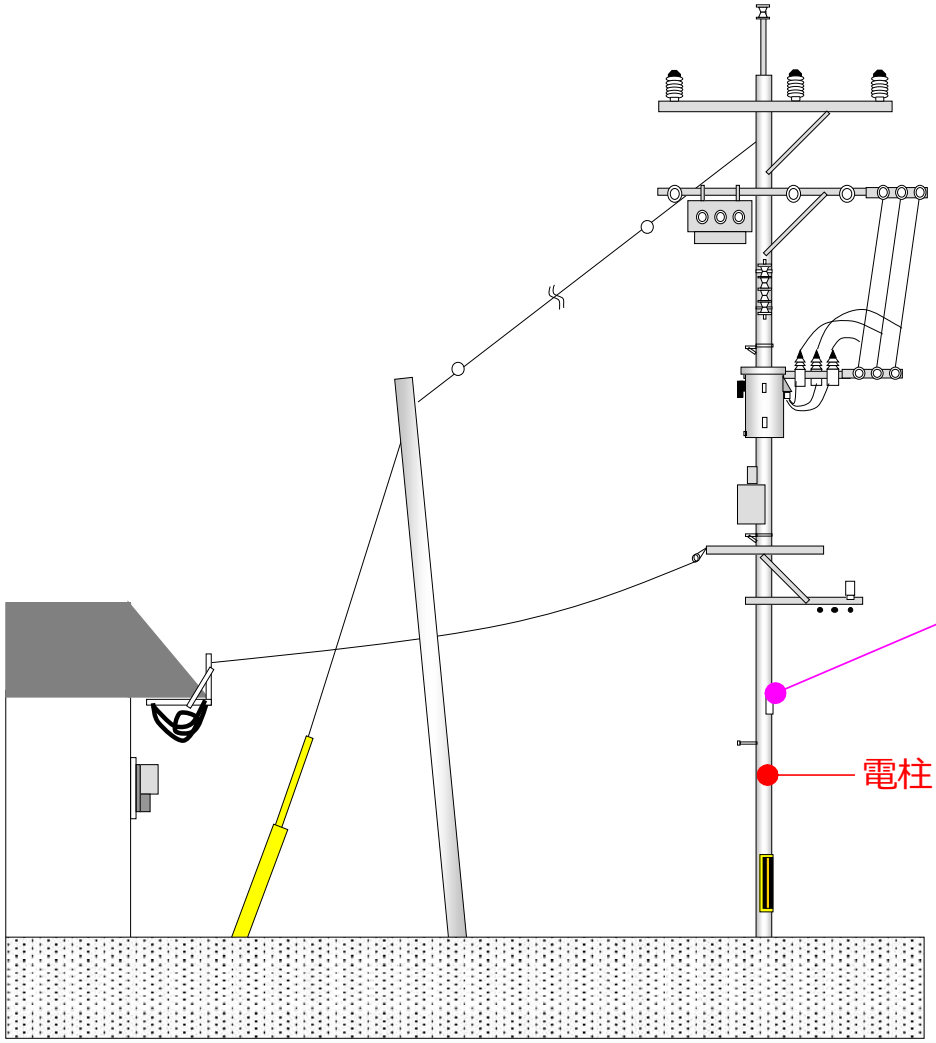

(2)架空地線
(4)高圧線
ビル・工場等
お客さま
開閉器
(14)引込線（高圧）
(11)共同支線
(11)共同支線
(12)普通支線
(15)VCT
（高圧）
(16)電力量計
（高圧）
(1)電柱（本柱）
お客さま
電柱

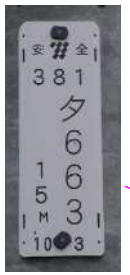
1 配電設備一覧〔2/2〕

設　　備	説　　明	電気通電の有無
(1)電柱（本柱）	電線等を装柱・架線し、支える柱	なし
(2)架空地線	雷保護のためのワイヤー	なし
(4)高圧線	6,600Vの電線（黒色）	あり
(11)共同支線	電柱にかかる張力を支える、電柱間に張るワイヤー	なし
(12)普通支線	電柱にかかる張力を支える、電柱から地面に張るワイヤー	なし
(14)引込線（高圧）	工場やビルなどの高圧お客さまへ電気を送るための高圧電線	あり
(15) VCT（高圧）	電力量計（高圧）で計測するために、高圧から低圧に電圧を下げる機器	あり
(16)電力量計（高圧）	高圧お客さまの電気使用量を計測するための装置	あり

(1)電柱（本柱）

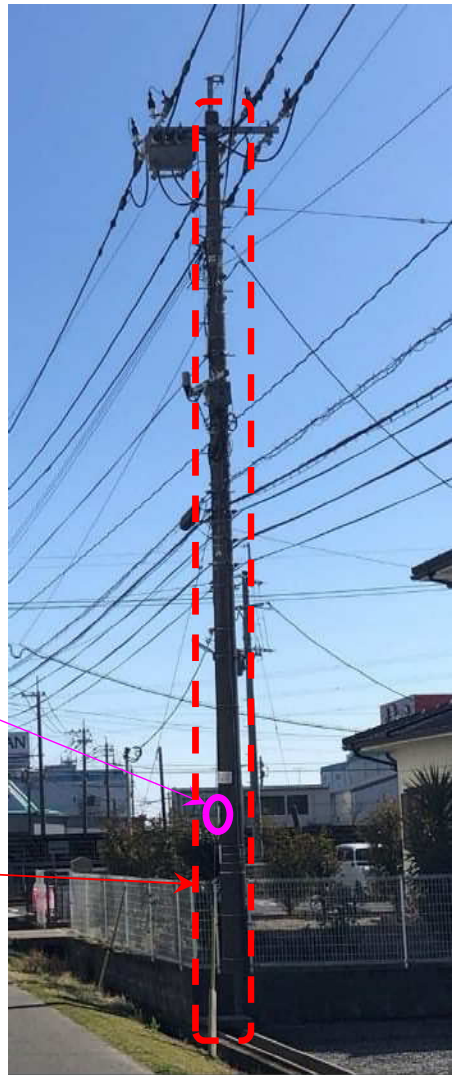
- 電柱（本柱）とは、電線等を装柱・架線し、支える柱です。
- 電柱（本柱）には、地上２ｍ付近に電柱札（縦24㎝×横8㎝）を取付けています。
- 電柱（本柱）には、九電柱とNTT柱があり、電柱札が上部にある会社が所有者です。





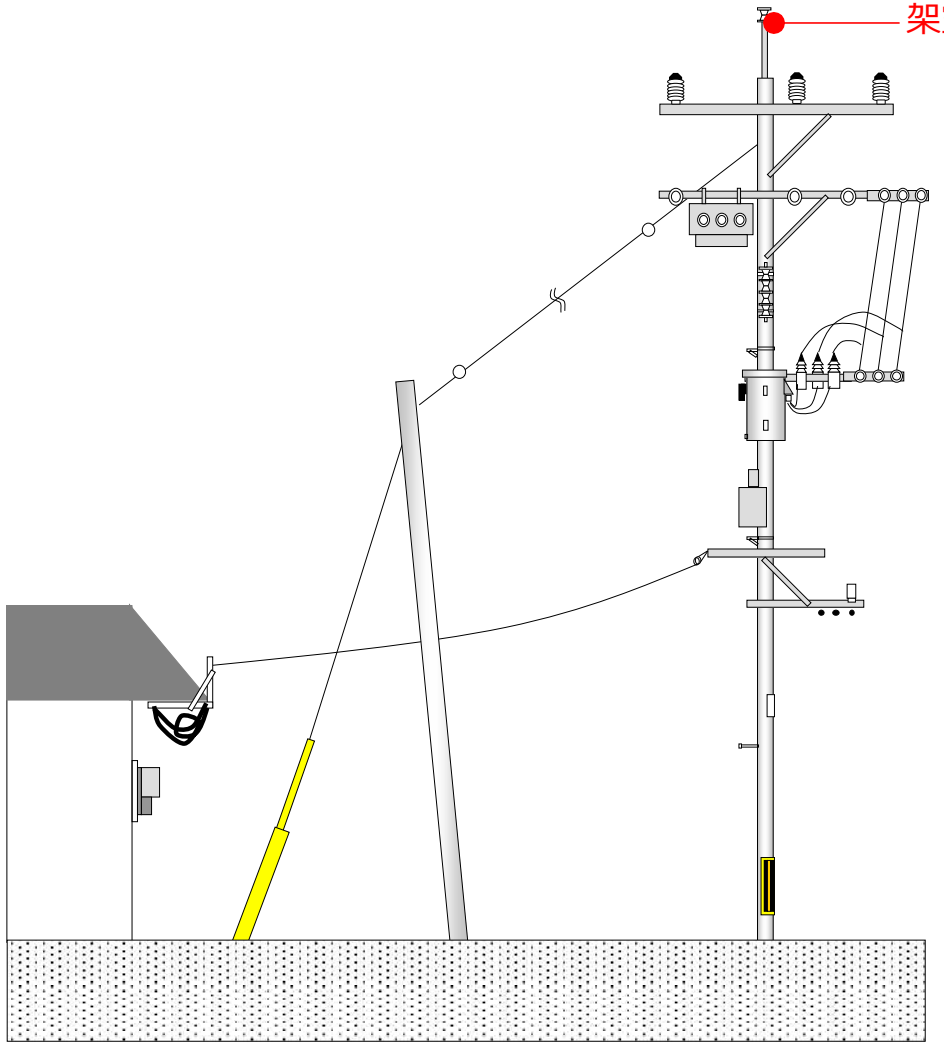
九電送配の
電柱札

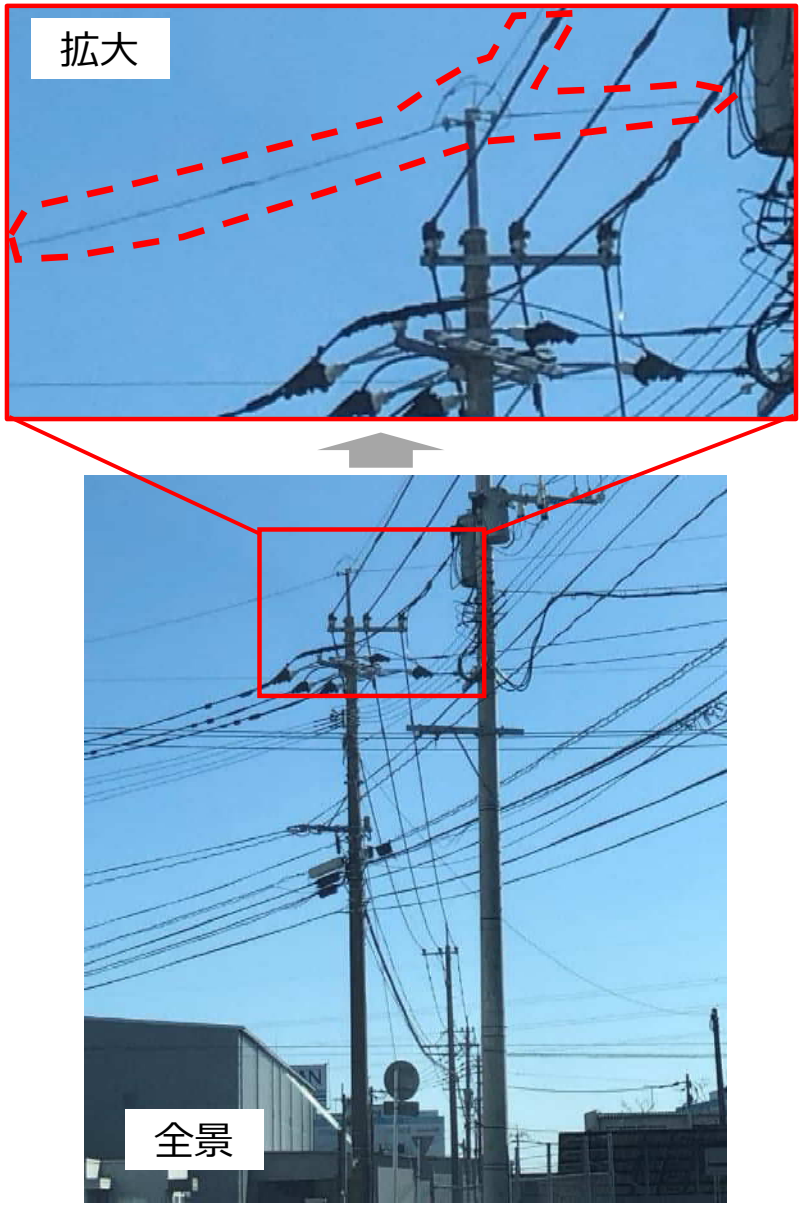
電柱（本柱）



(2)架空地線

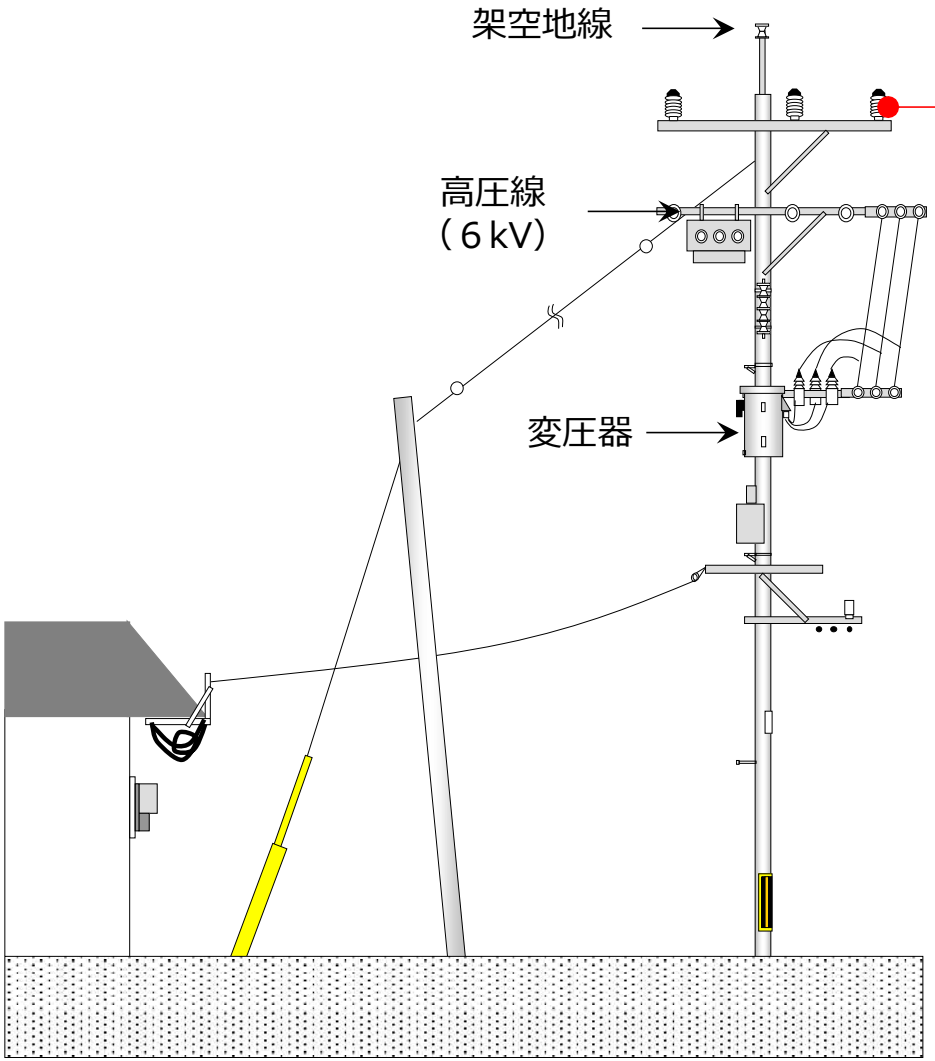
- 架空地線とは、電柱（本柱）の最上段にある、雷保護のためのワイヤーです。
- 特高・高圧線の上部に設置し、落雷を架空地線（１本）に誘導し、雷電流を安全に大地に流す役割を担います。ワイヤーは、銀色ですが、錆びている場合、茶褐色となります。

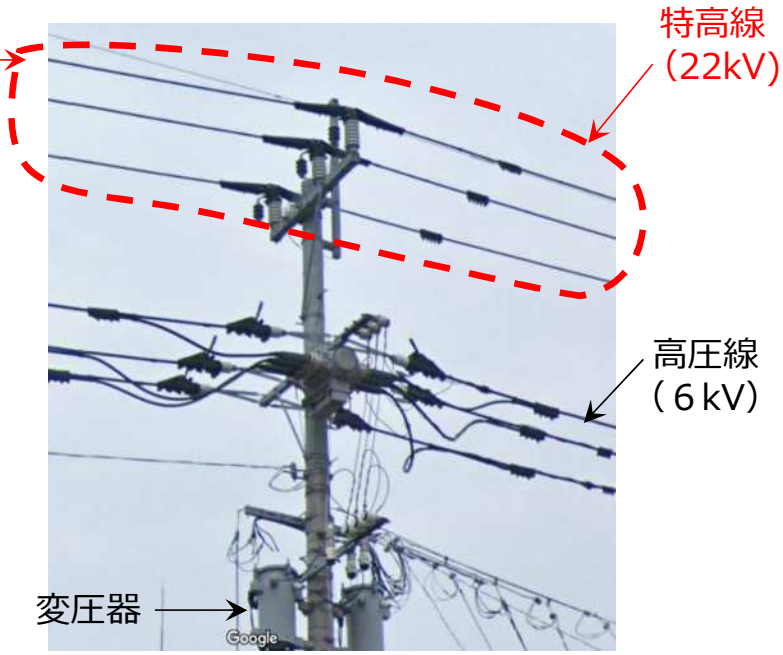




(3)特高線

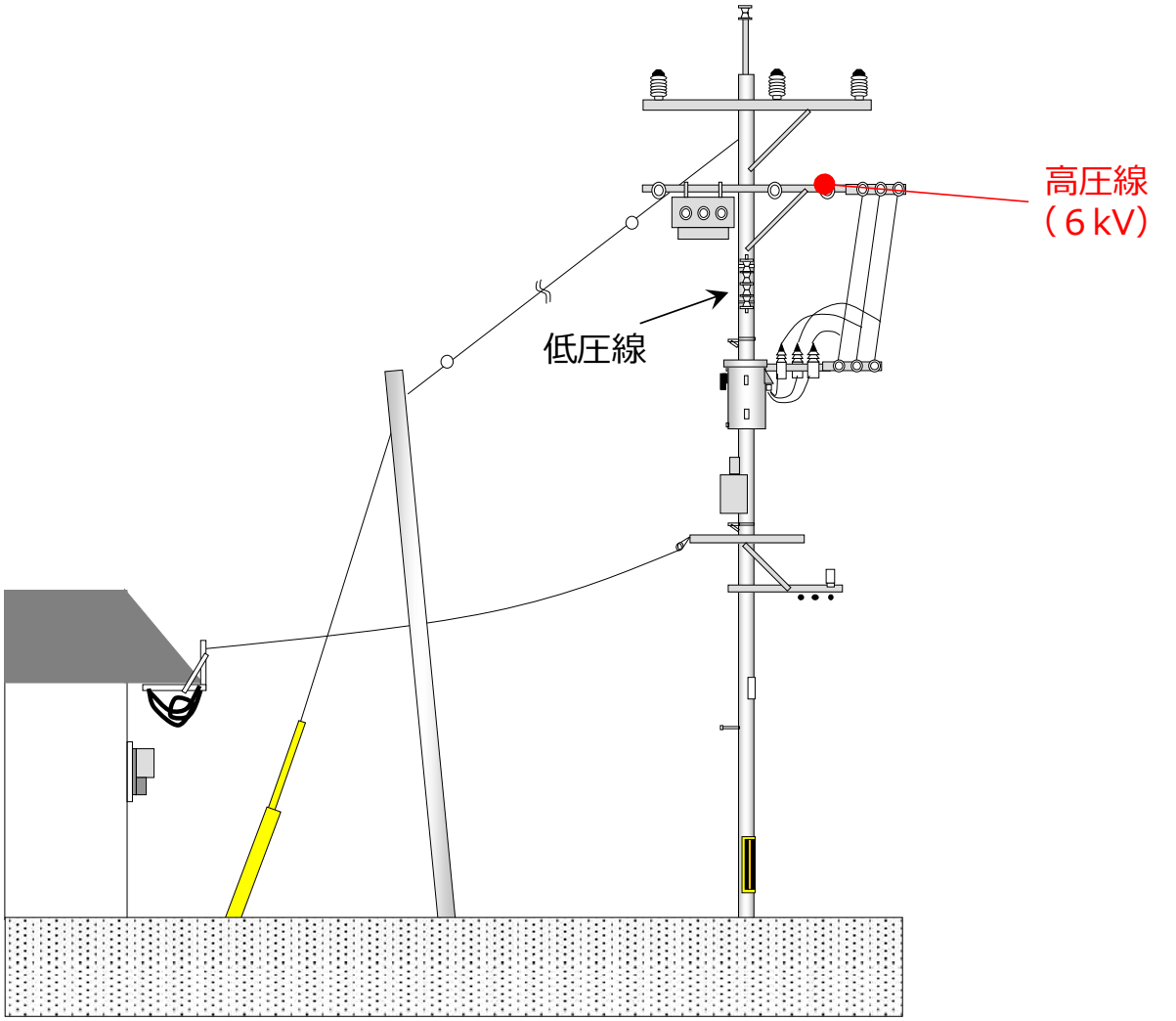
- o 特高線（特別高圧線）とは、22,000Vの電線です。
- o 変電所から３本の特高線で電気を送っています。架空地線の下部（高圧線の上部）に設置し、電線の色は黒色です。
- o 装柱パターンは、水平配線と垂直配線があります。



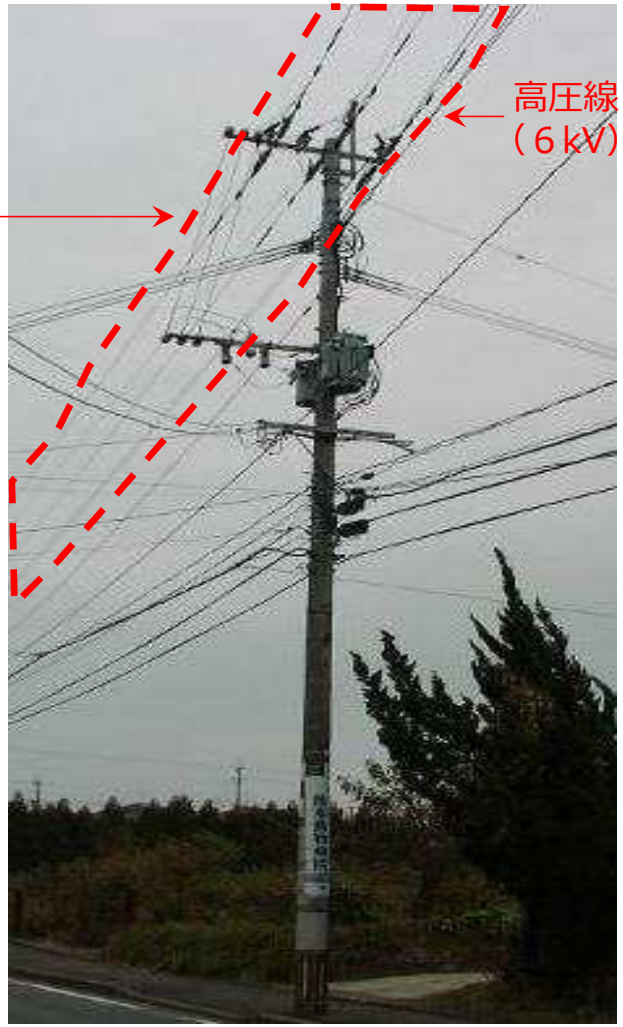


(4)高圧線〔1/2〕

- o 高圧線とは、6,600Vの電線です。
- o 変電所から３本の高圧線で電気を送っている。特高線の下部(低圧線の上部)に設置し、電線の色は黒色です。
  ※特高線がない場合は、架空地線の下部に設置します。
- o 装柱パターンは、水平配線と垂直配線があります。



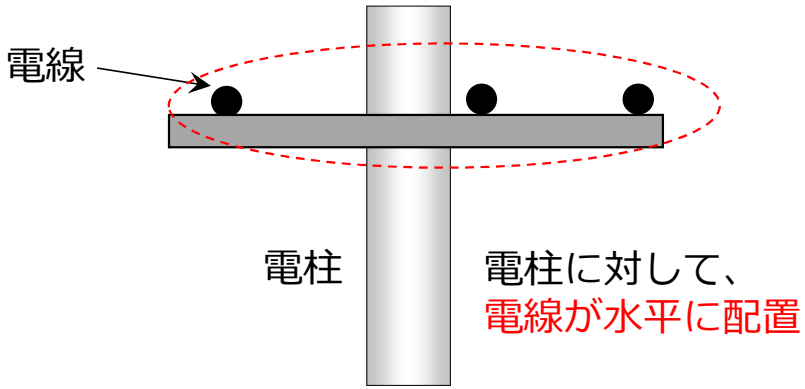
〔特高線(22kV)のない状況〕



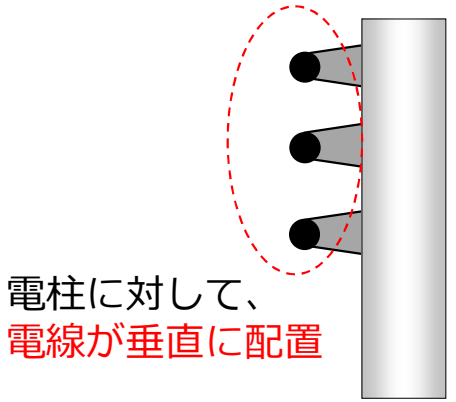
(4)高圧線〔2/2〕

o 高圧線の配線には、下写真のように水平配線と垂直配線があります。
※特高線、低圧線も同様に水平配線と垂直配線があります。

水平配線

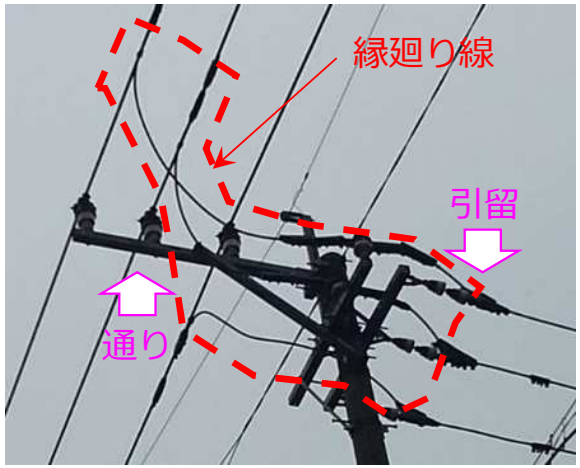


垂直配線



（参考１）特高線と高圧線の装柱

o 装柱は、標準的に次の３つに分かれます。
※下写真は、高圧線の水平配線の例です。

通　　り	振　分　け	引　　留
※縁廻り線なし		

（参考２）特高線と高圧線の見分け方

o 特高線と高圧線は、同じ黒色で両方とも電柱頂部にあるため、遠目では見分けが難しいのですが、電線を留める碍子が異なるため、碍子を見ることで見分けが容易となります。

	通り装柱	振分け装柱	引留装柱
特高線			
高圧線			

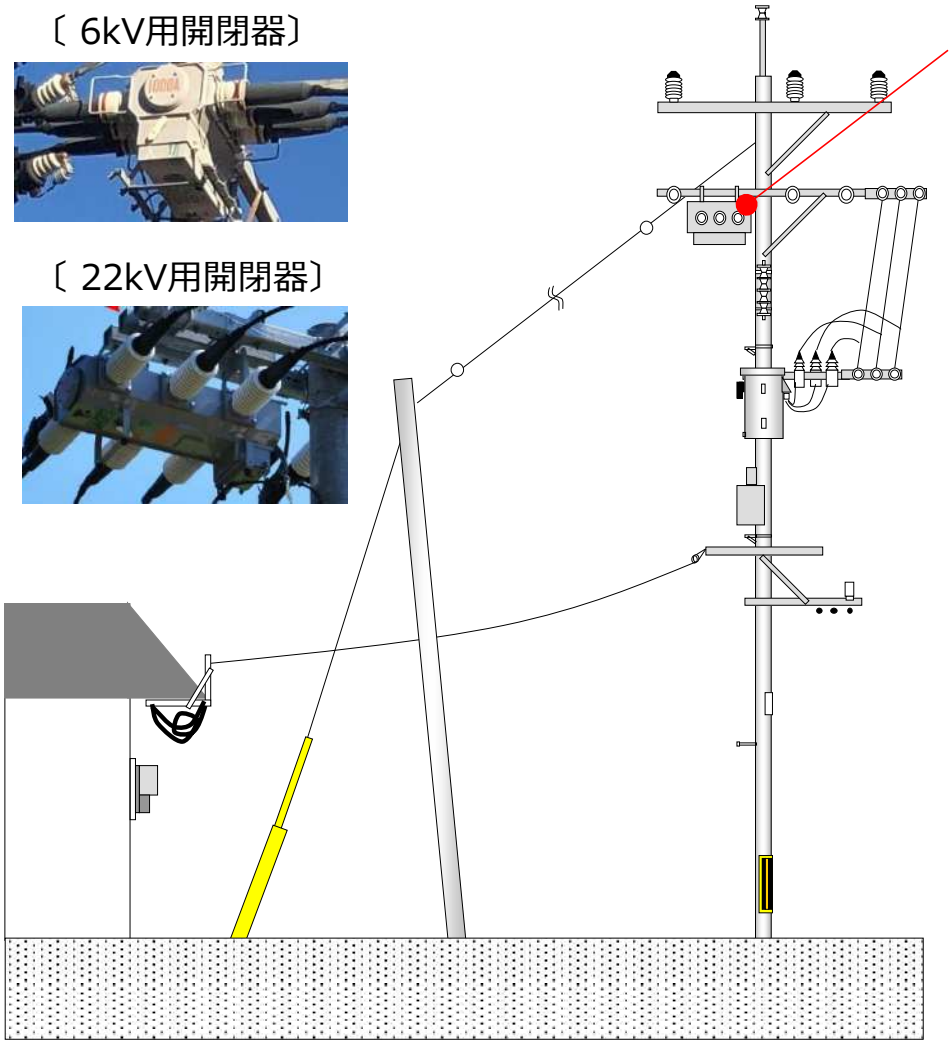
(5)開閉器

o 開閉器とは、高圧電線路を切分けるためのスイッチ(入:通電、切:通電なし)です。

o 通常は開閉器は「入」ですが、電柱工事の時に工事区間を停電させる場合や、配電線事故時に不良区間を切分ける場合は、「切」になります。

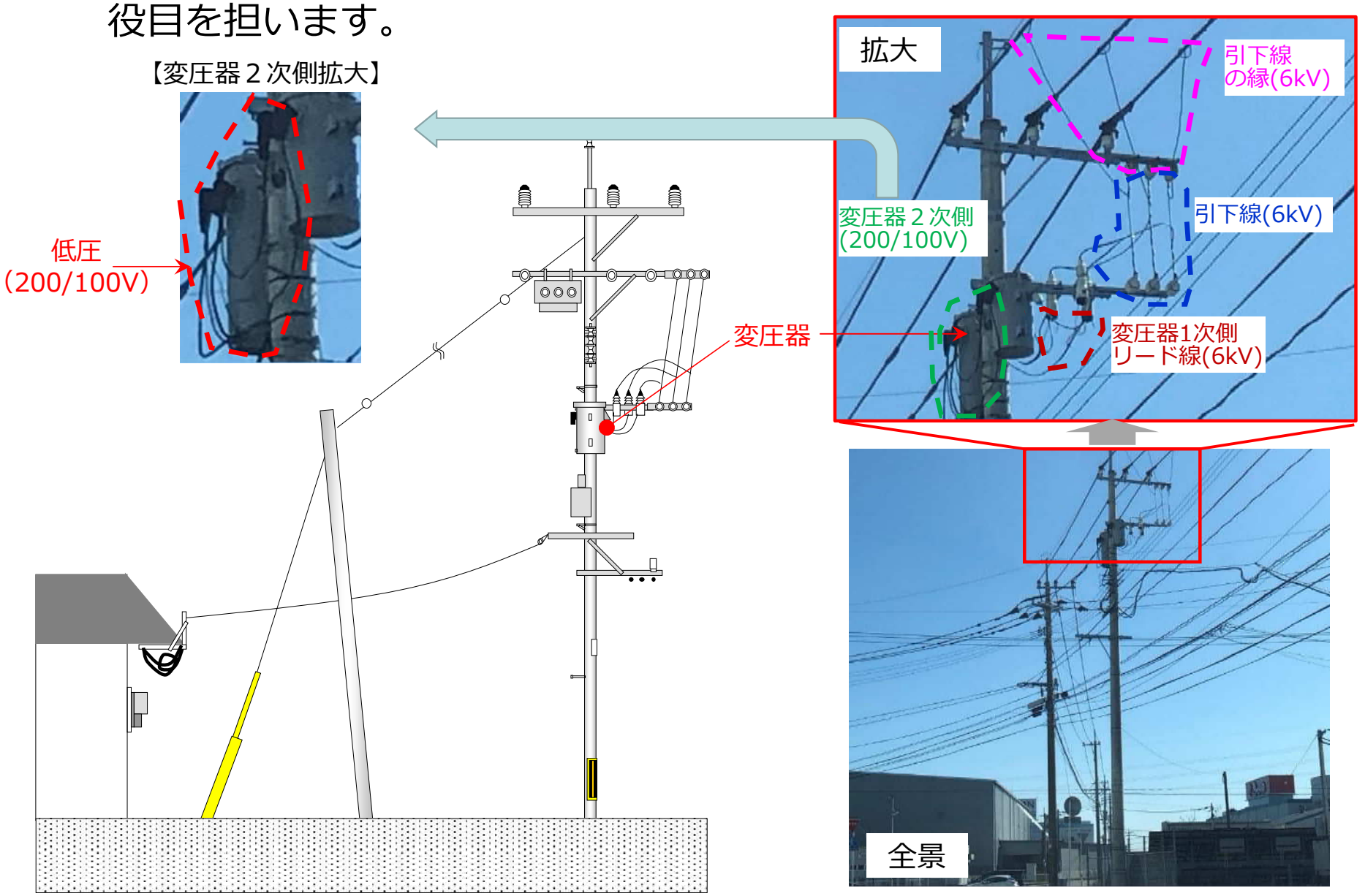
〔 6kV用開閉器〕

〔 22kV用開閉器〕



(6)変圧器〔1/3〕

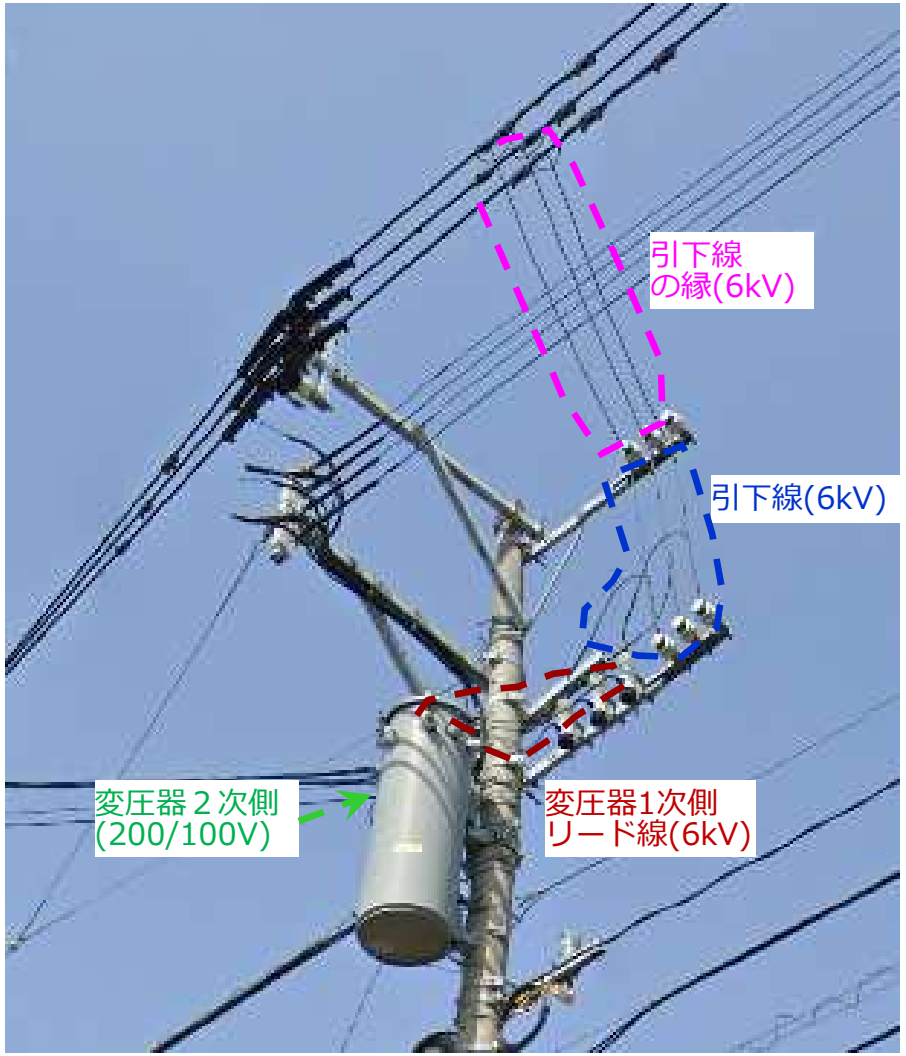
- o 変圧器とは、高圧線（又は特高線）の下部、又は低圧線の下部に配置し、高圧（又は特高）から低圧に電圧を下げる機器です。
- o 高圧（６ｋV）から取扱いやすい家庭用電圧（200V又は100V）に変換する役目を担います。



(6)変圧器〔2/3〕

o 変圧器のその他の装柱例

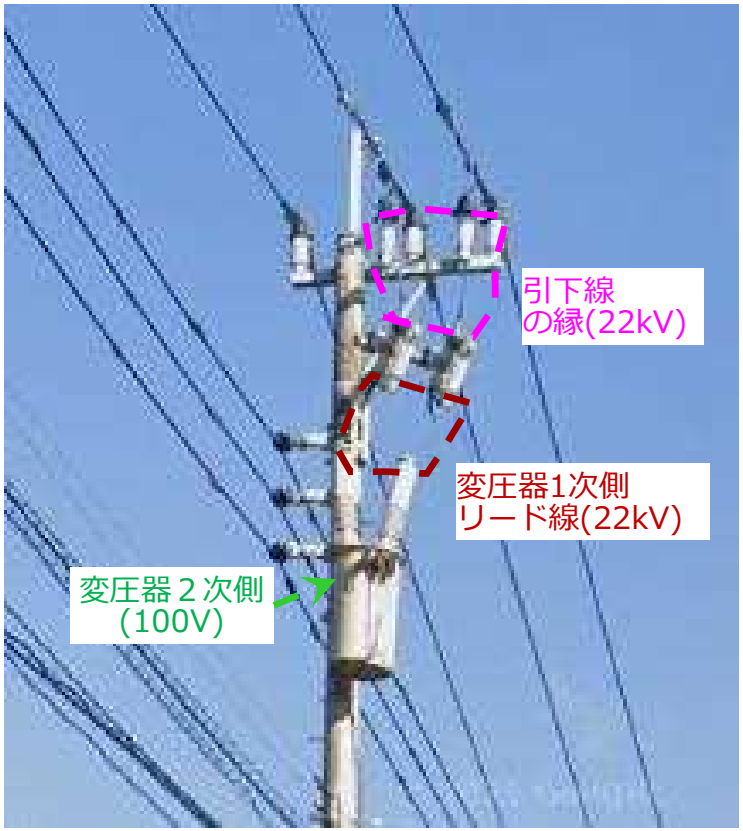
一体形変圧器
（変圧器２台分（電灯＋動力））



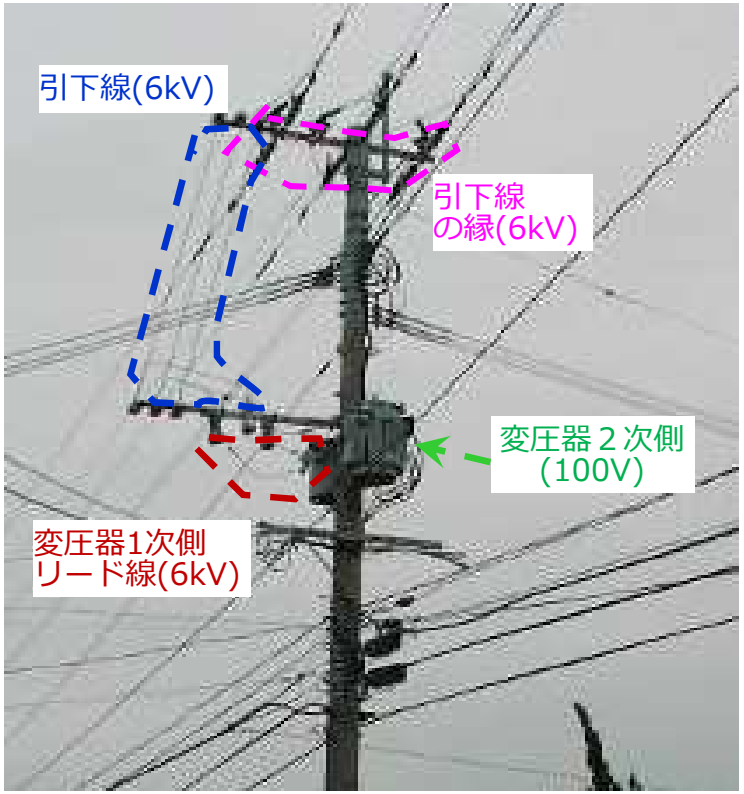
再生一体形変圧器
（変圧器２台分（電灯＋動力））

(6)変圧器〔3/3〕

o 変圧器のその他の装柱例



２２ｋV変圧器

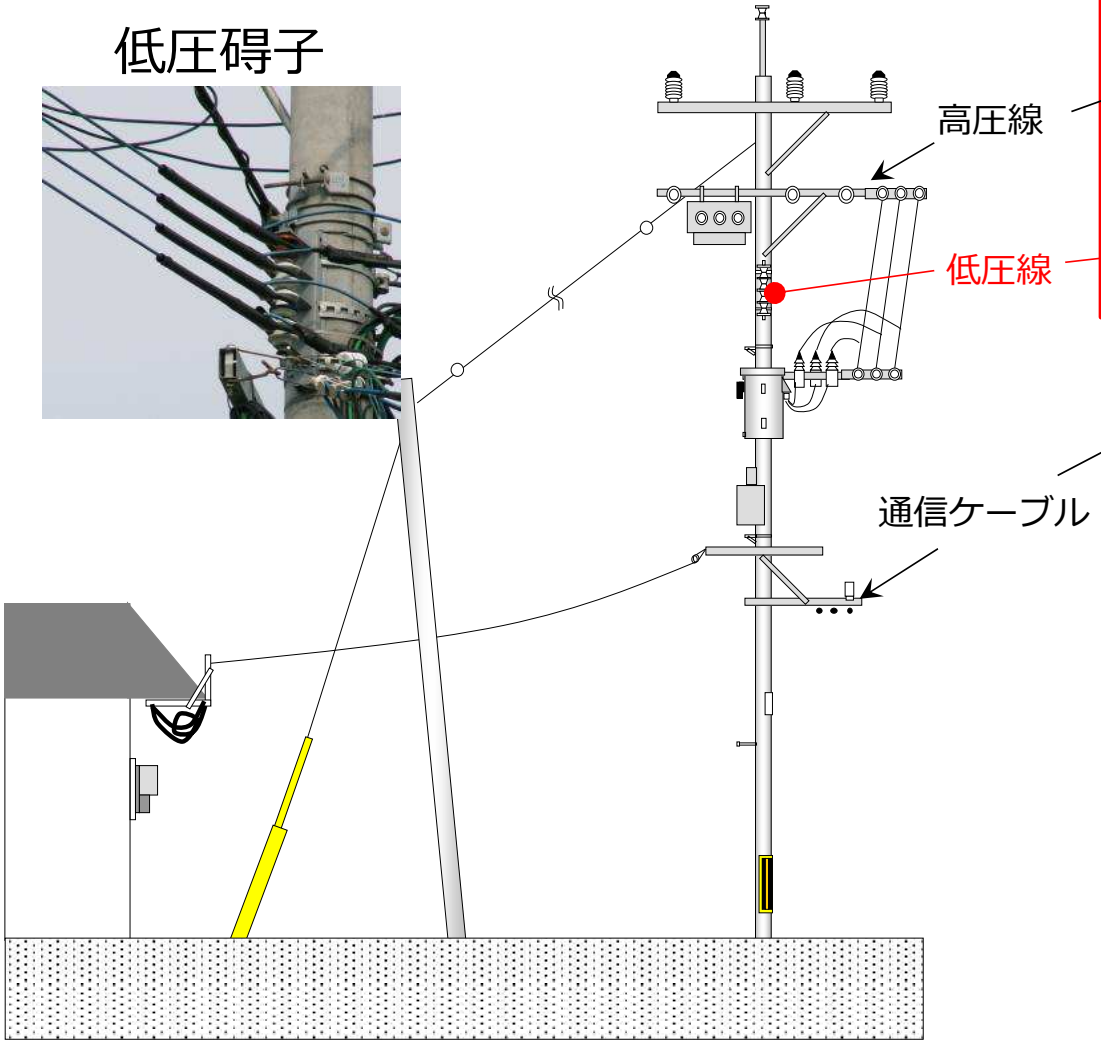


６ｋV変圧器

(7)低圧線〔1/2〕

- 低圧線とは、200V又は100Vの電線です。
- 低圧線は、高圧線と通信ケーブルの間に設置し、２～４本の黒色又は青色の電線です。

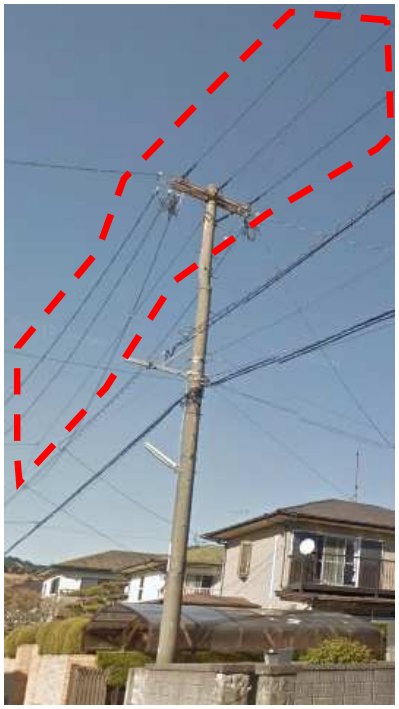
低圧碍子

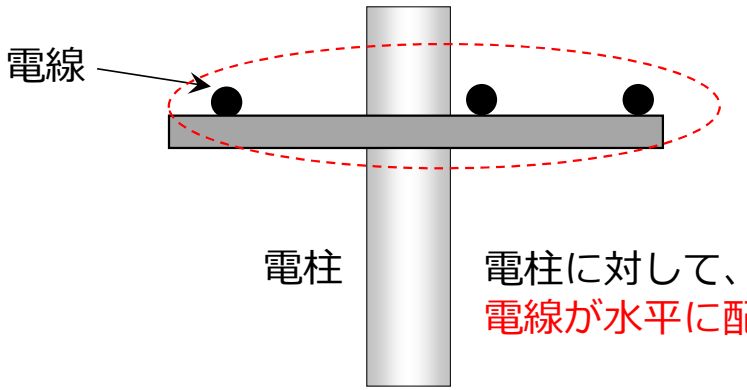


(7)低圧線〔2/2〕

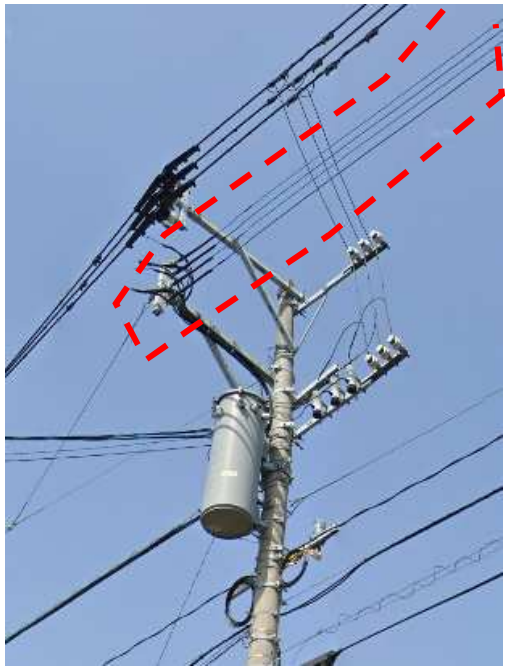
o 装柱パターンは、水平配線と垂直配線があります。

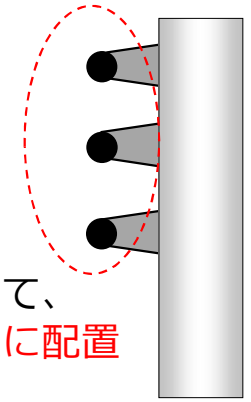
水平配線





垂直配線

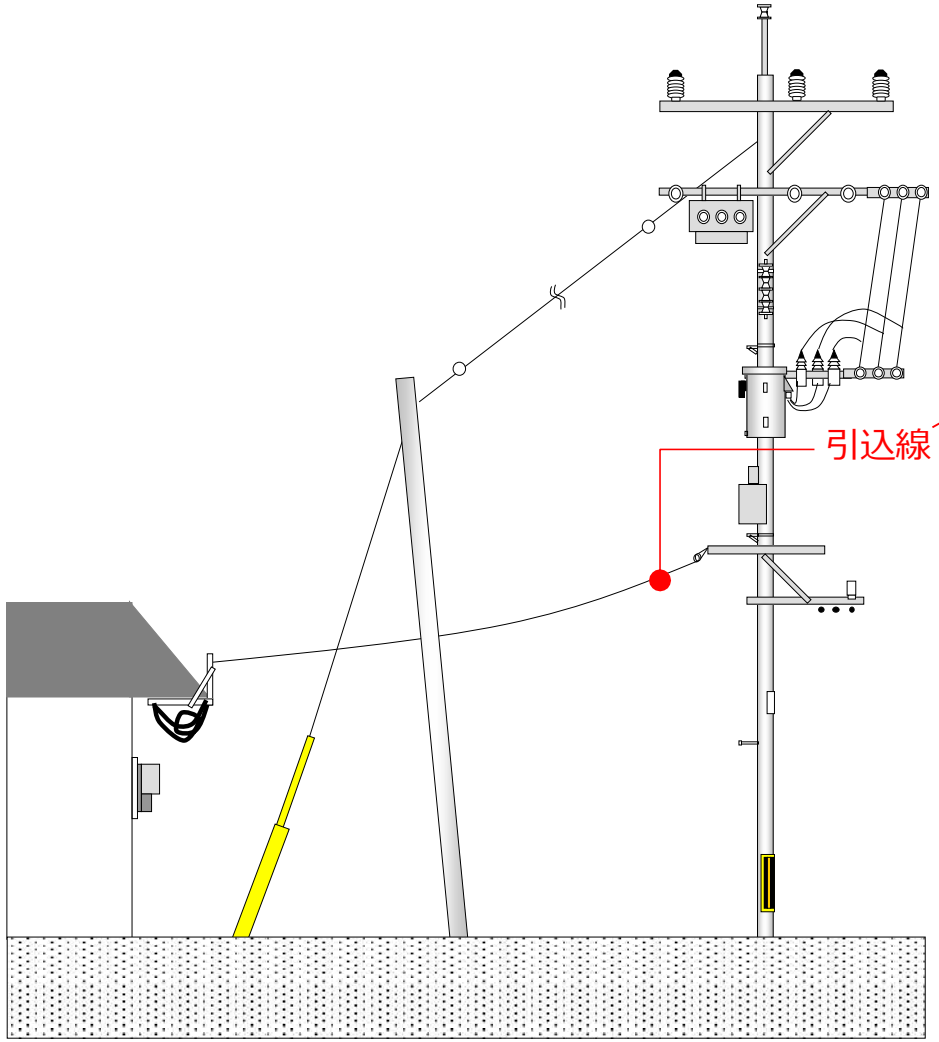


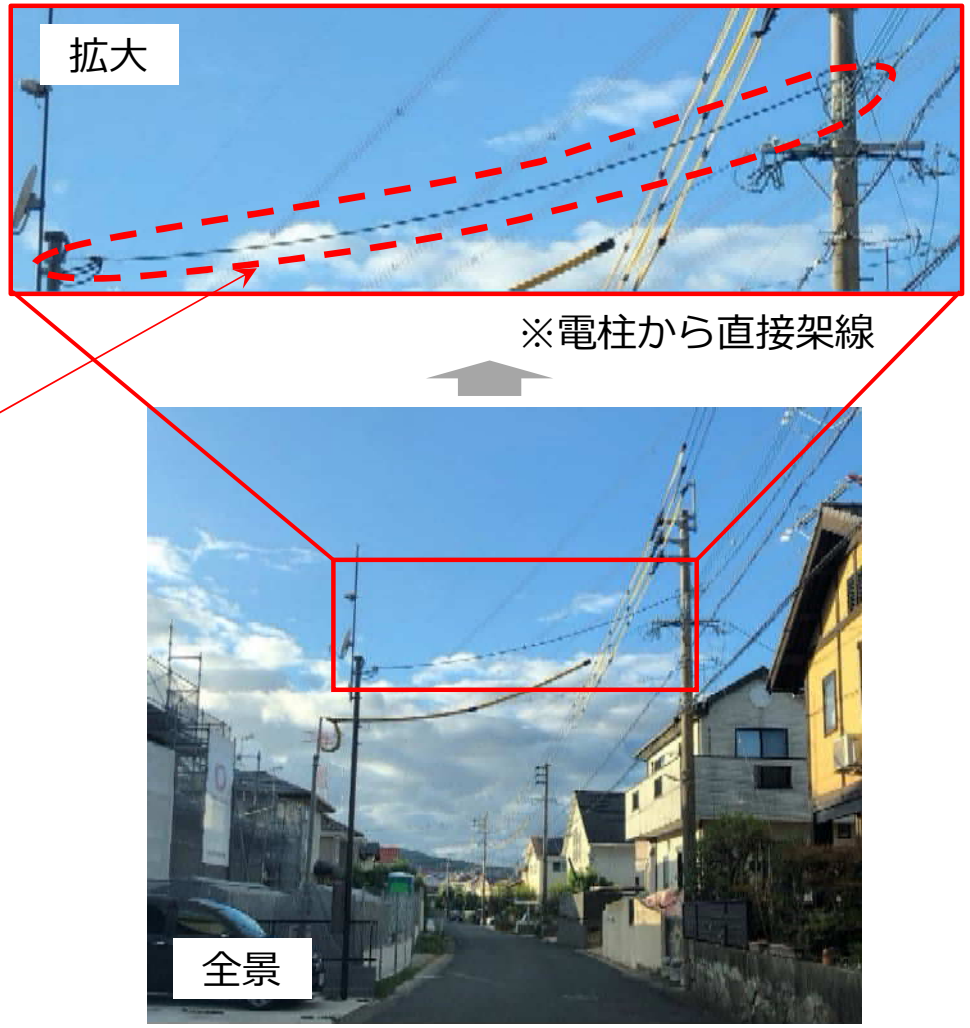


(8)引込線〔1/2〕

o 引込線とは、一般家庭などの低圧お客さまへ電気を送るための低圧電線（200V又は100V）です。

o 低圧線（含む変圧器２次側）から分岐し、低圧お客さま家屋（屋側）に電気を送っています。

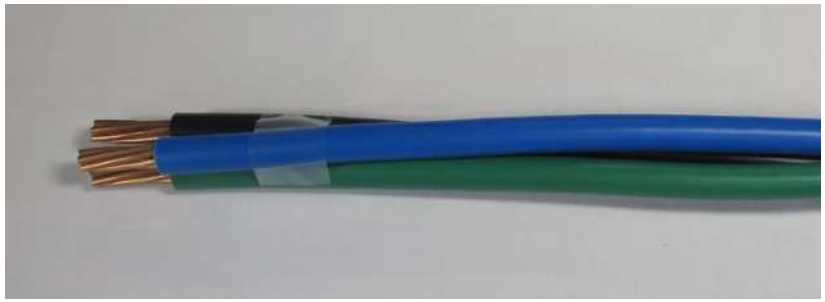




(8)引込線〔2/2〕

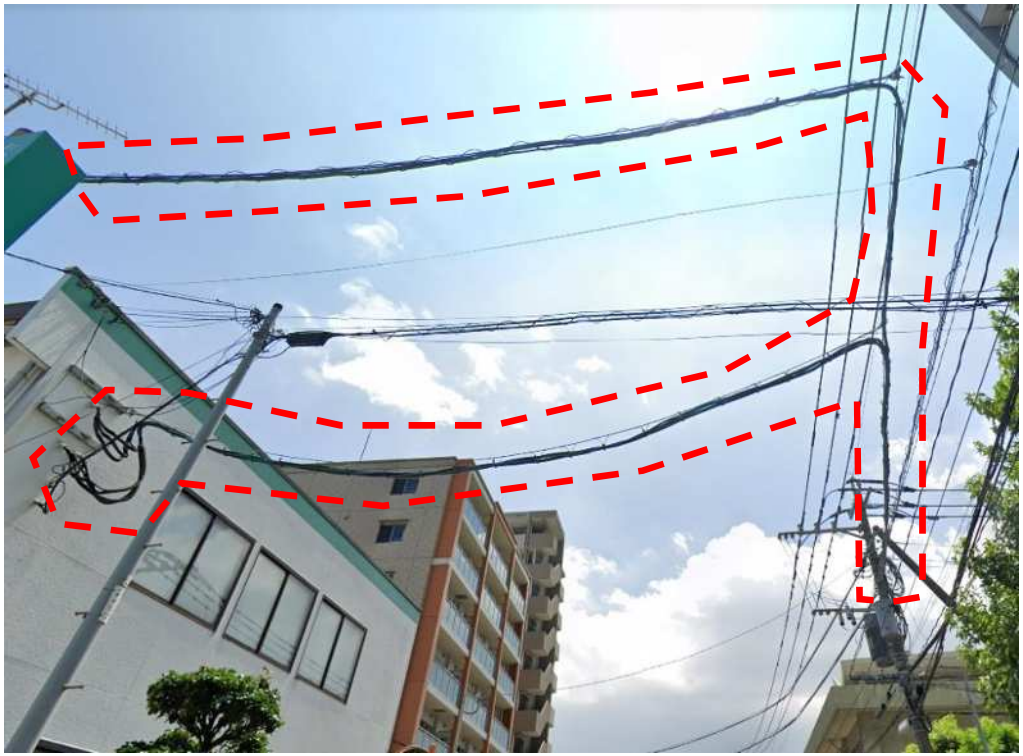
o 電線は、3本より（黒・青・緑）と2本より（黒・緑）があります。

引込線（３本より）



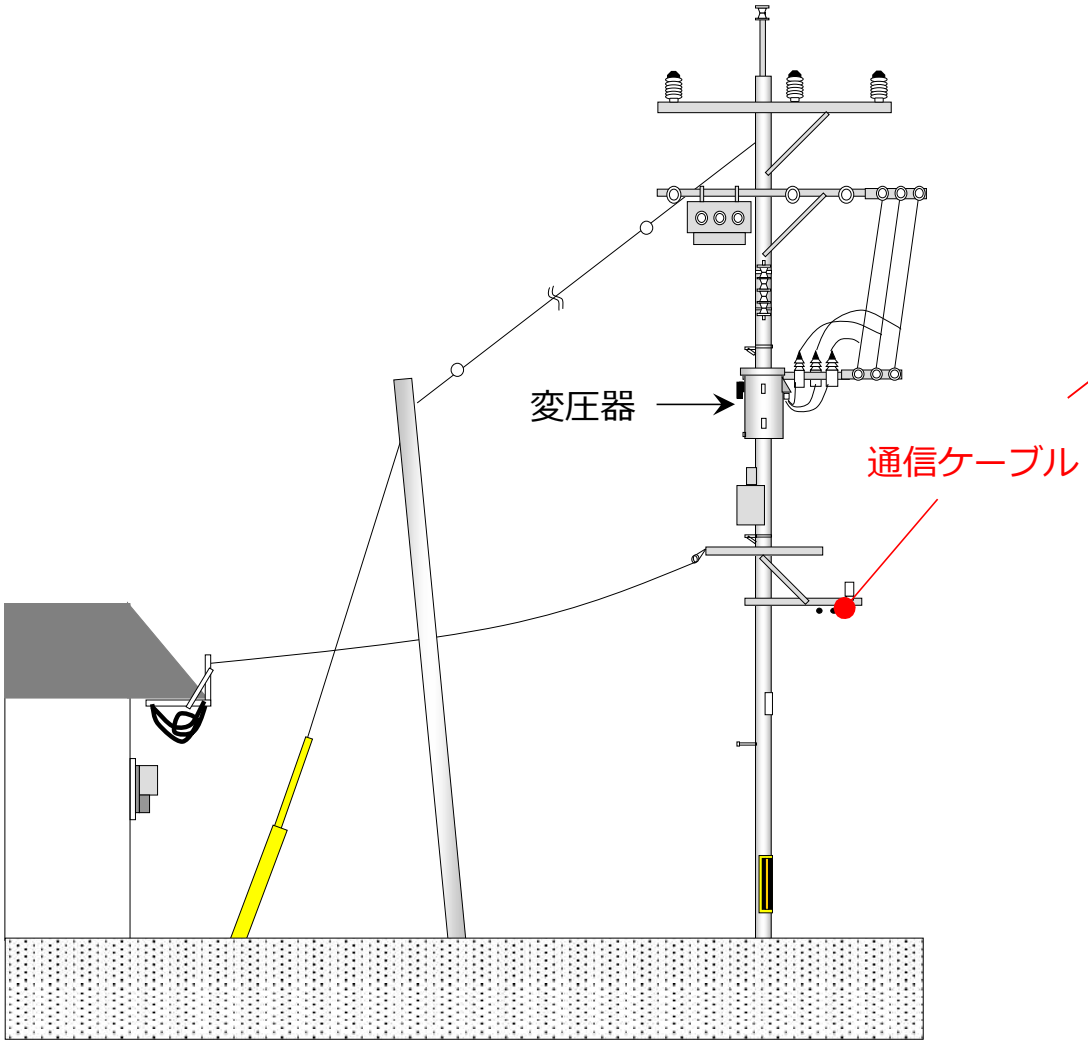
引込線（2本より）

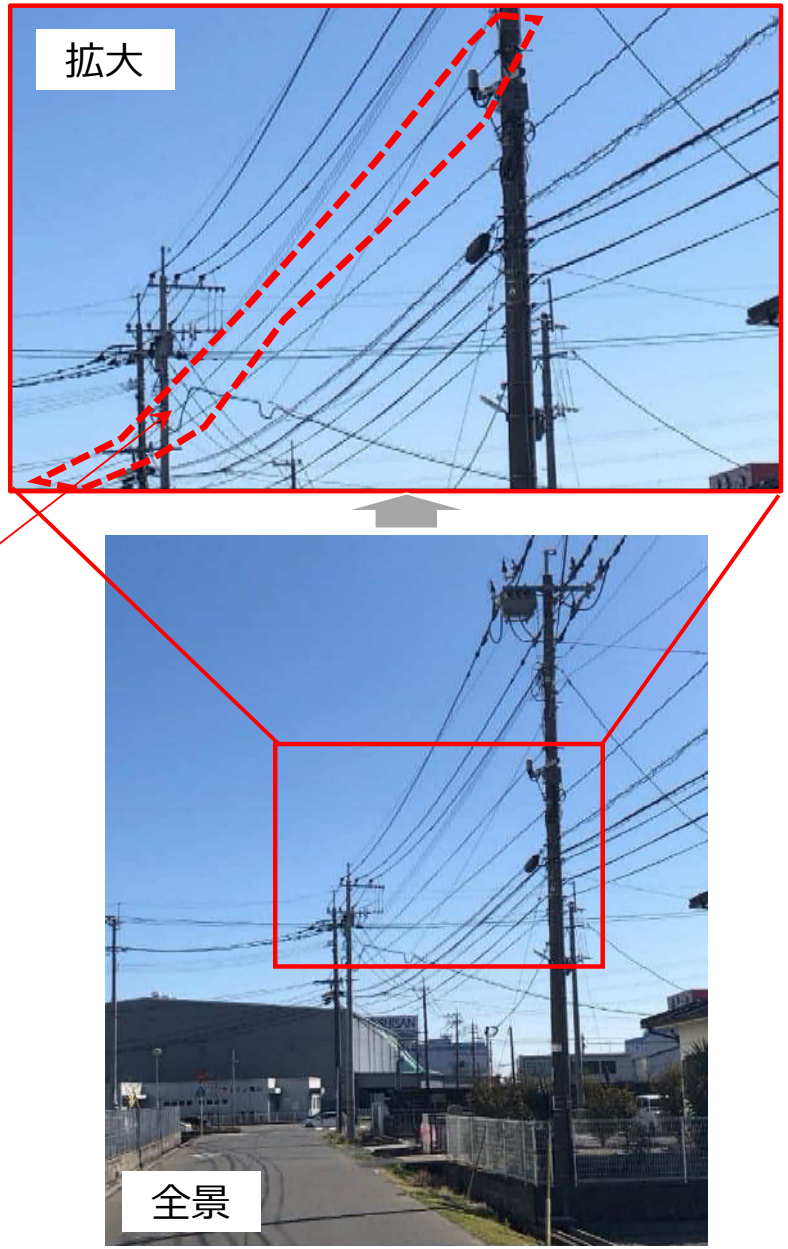
ワイヤーに添って引込線を架線



(9)通信ケーブル〔1/3〕

- o 通信ケーブルとは、開閉器の入/切を行う信号を送るケーブルです。
- o 開閉器を配電事業所から遠隔制御（入/切）するための信号が流れています。
- o 変圧器より下部の高さに設置し、ケーブルの色は黒色です。





(9)通信ケーブル〔2/3〕

o ケーブルに取付られた「表示管」で九州電力送配電の通信ケーブルを見分けます。

※ 表示管の取付箇所
- 標準２スパンに1個
- 分岐箇所
- 横断箇所
- その他必要箇所（多条箇所など）

表示管：「配電遠制」など（黄色地に黒字）

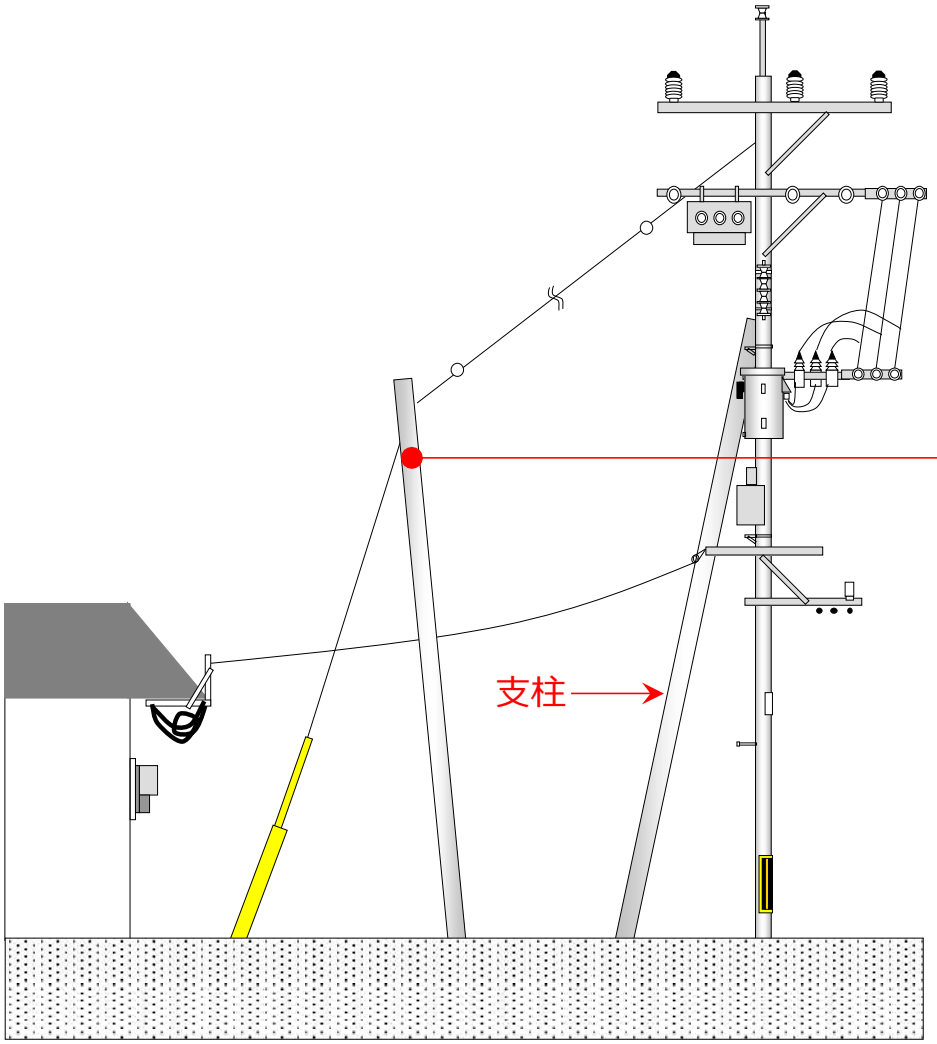
(9)通信ケーブル〔3/3〕

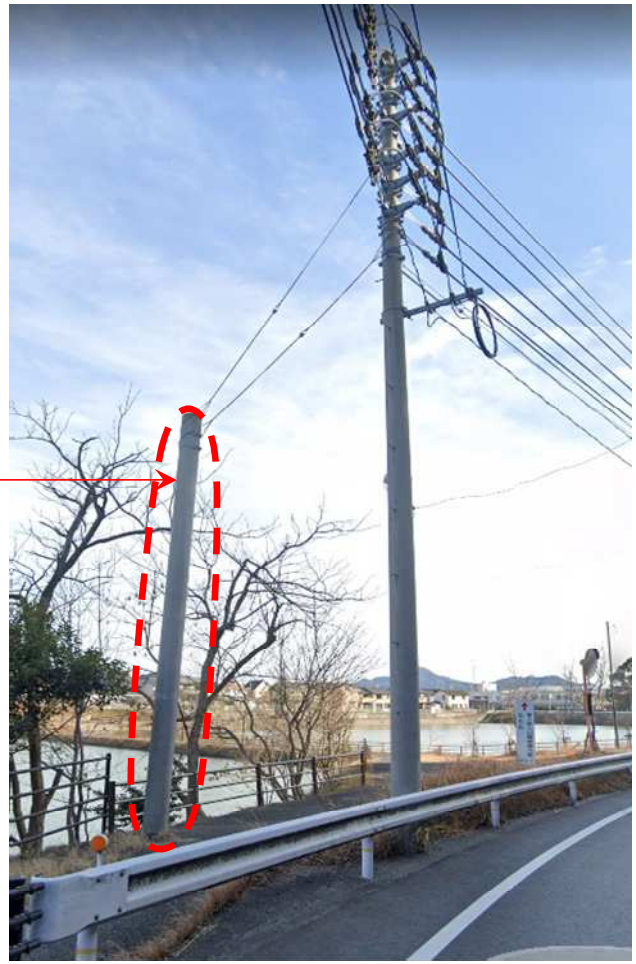
o 九電送配の表示管は、下表のとおりで、色、名称、帯色で見分けます
　下表の表示管がケーブルに取付けてある場合は、連絡をお願いします。

	表　示　管	特　　徴
配電設備		黄色地、黒文字、緑帯
		黄色地、黒文字、青帯
		黄色地、黒文字、青帯
電子通信設備		黄色地、黒文字
		黄色地、黒文字
		白色地、黒文字
		黄色地、黒文字、赤帯

(10)電柱（支線柱）

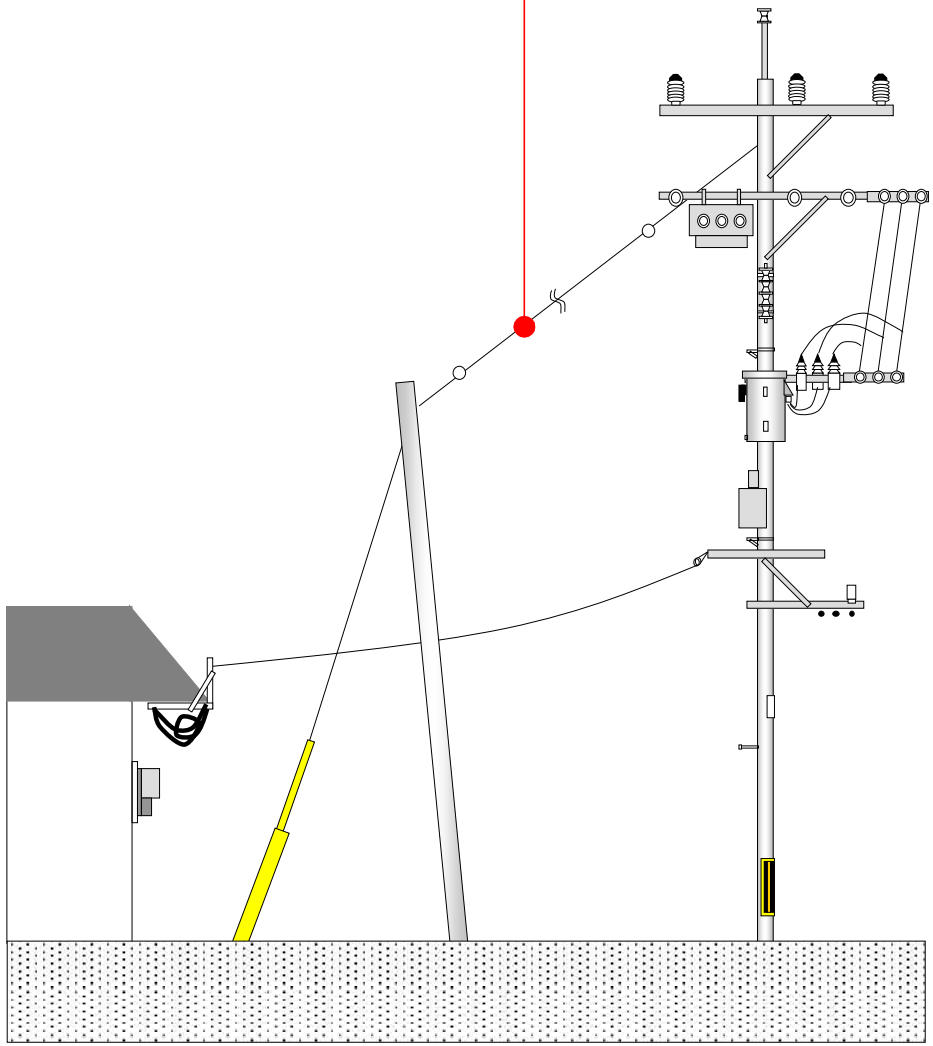
o 電柱（支線柱）とは、共同支線を支える柱です。
o 電線の張力により、電柱（本柱）が傾斜しないよう、共同支線を介して支える役目を担います。なお、電柱（本柱）を直接支える電柱を支柱といいます。

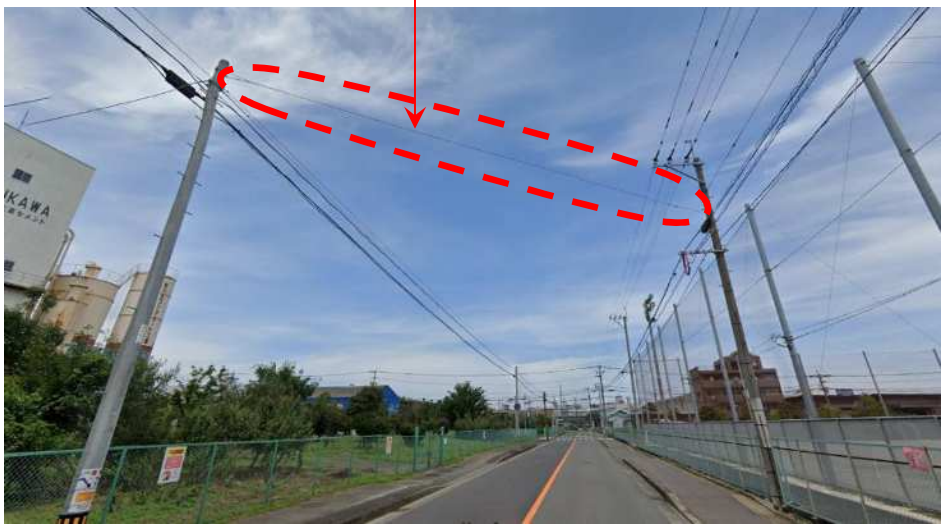




(11)共同支線

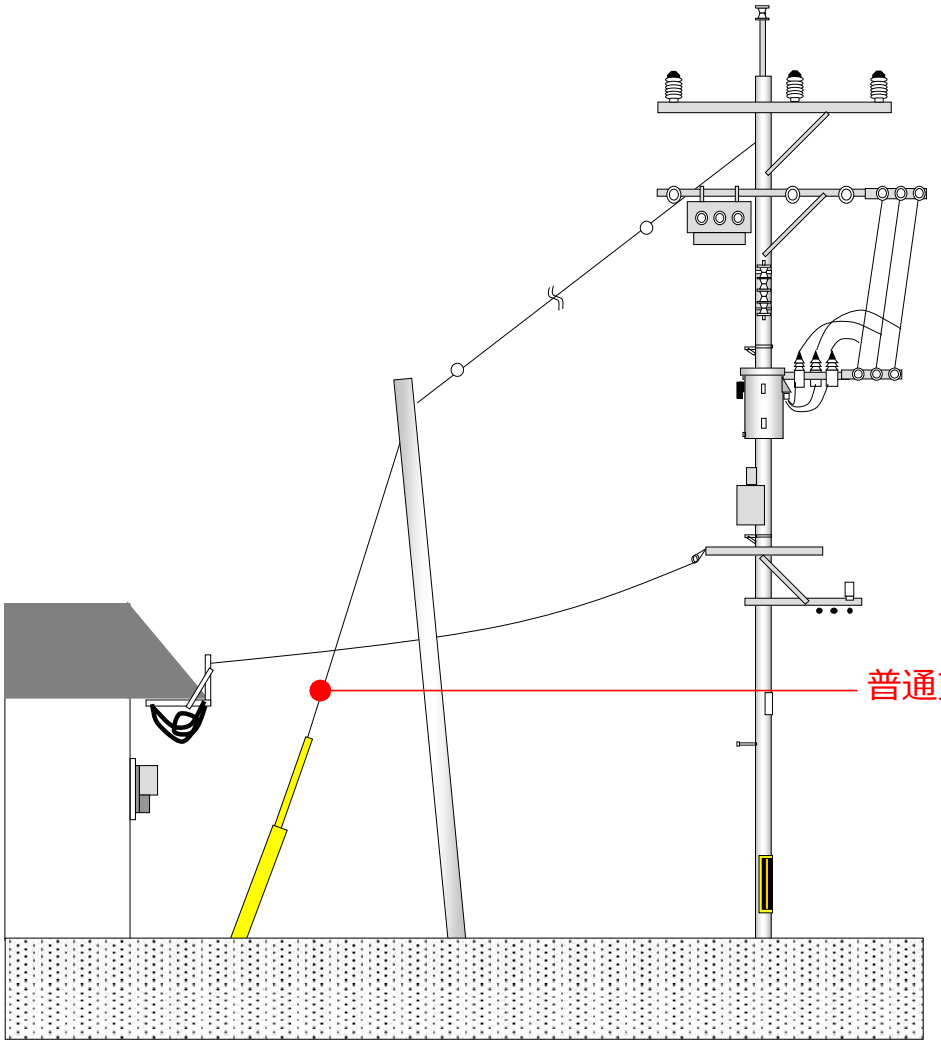
- 共同支線とは、電柱にかかる張力を支える、電柱間に張るワイヤーです。
- 電線の張力により、電柱（本柱）が傾斜しないよう、共同支線で引っ張る役目を担います。ワイヤーの色は銀色ですが、錆びている場合、茶褐色となります。





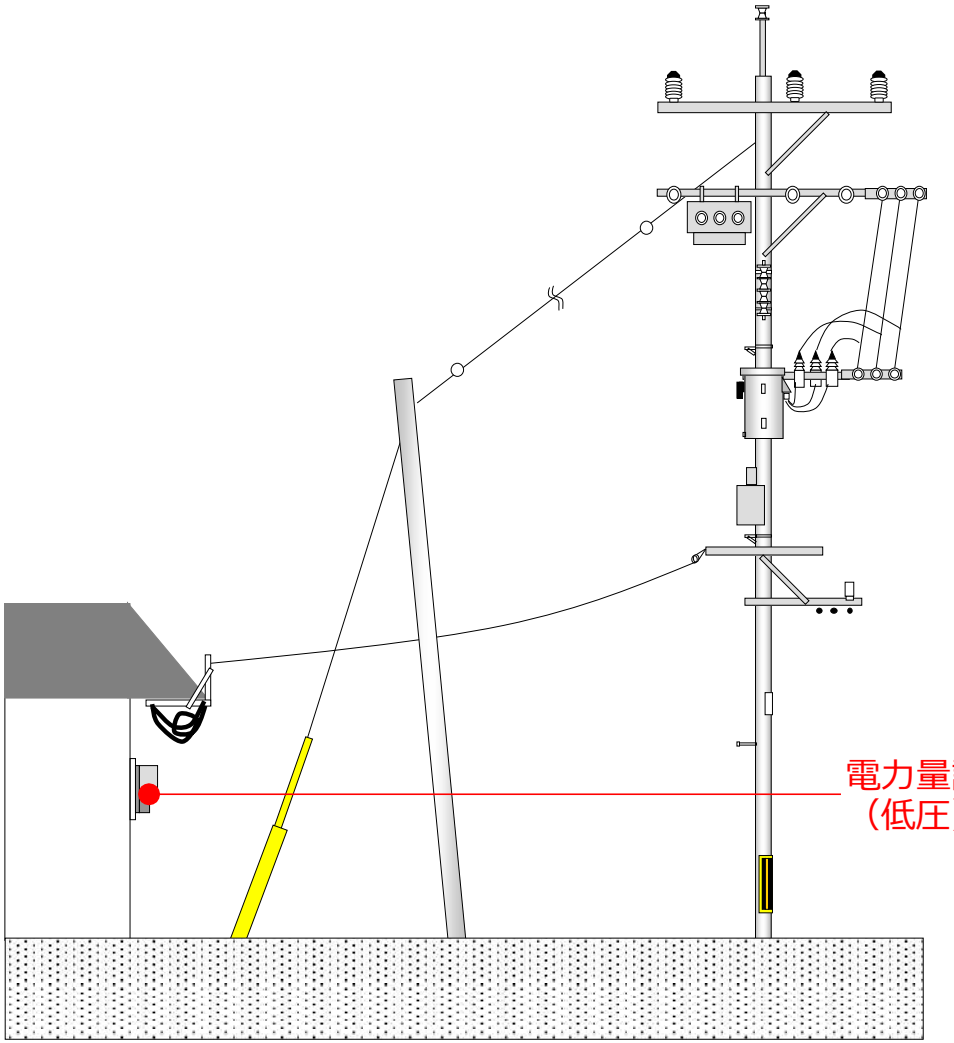
(12)普通支線

- o 普通支線とは、電柱にかかる張力を支える、電柱から地面に張るワイヤーです。
- o 電線の張力により、電柱（本柱）が傾斜しないよう、引っ張っておく役目を担います。ワイヤーの色は銀色ですが、錆びてる場合、茶褐色となります。



(13)電力量計（低圧）

- o 電力量計（低圧）とは、低圧お客さまの電気使用量を計測するための装置です。
- o お客さま家屋（壁）や小柱に設置し、計測結果と月に１回検針しています。
  ※スマートメーターは遠隔で、機械式計器は現地で検針しています。

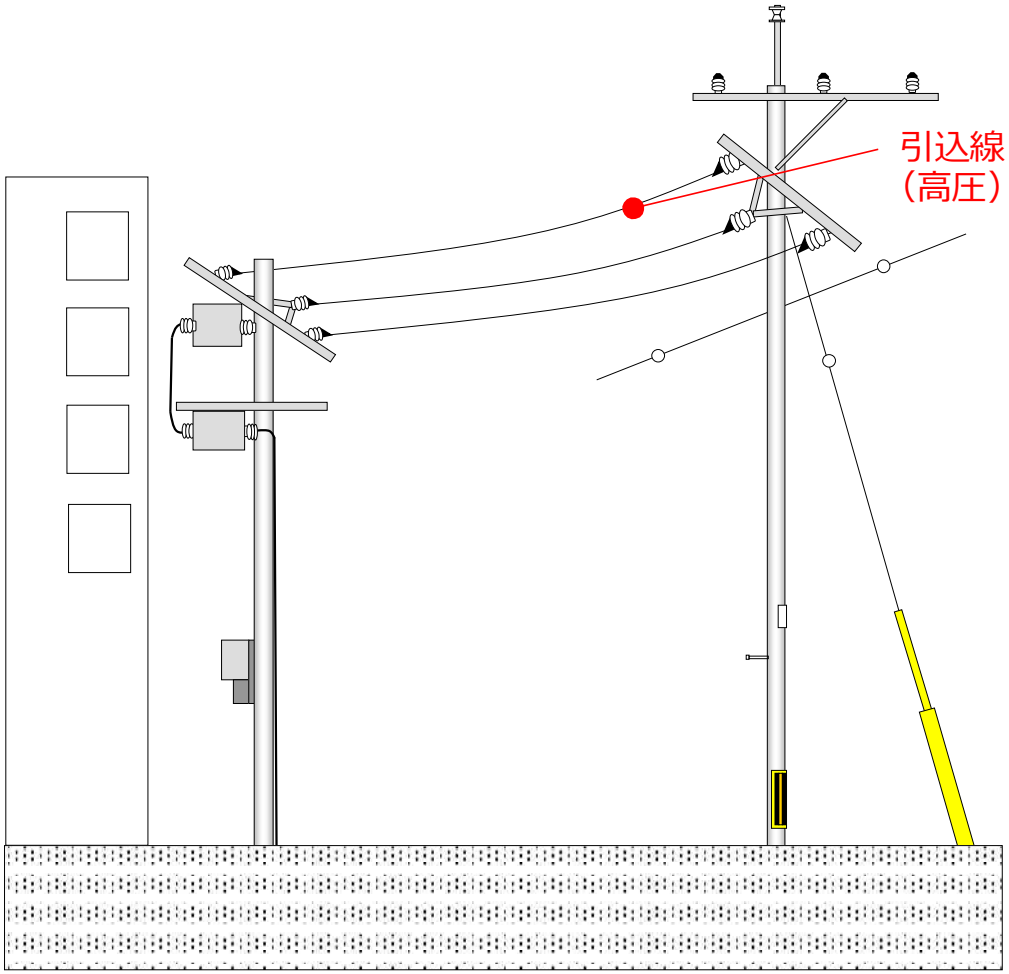


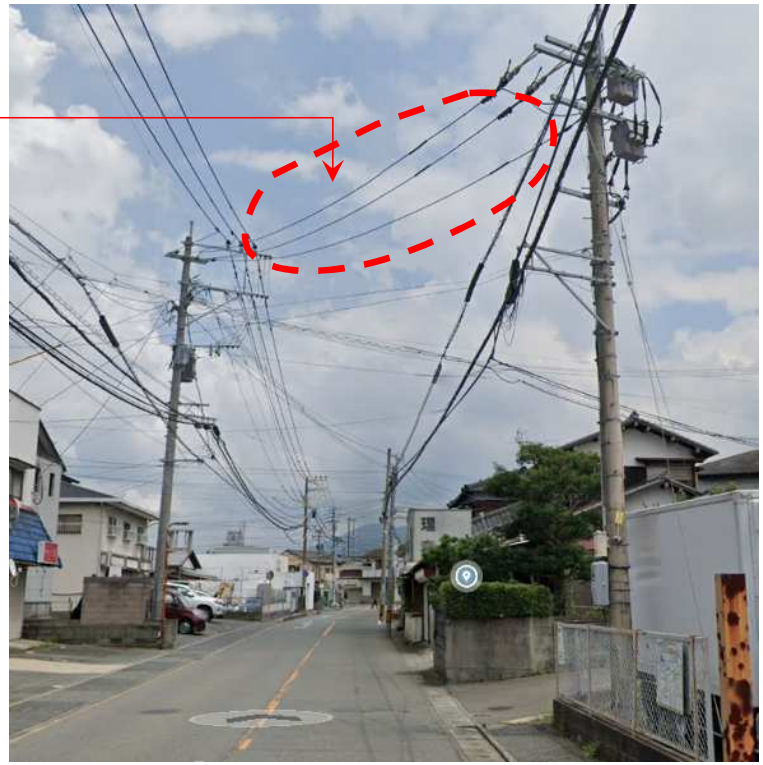
〔スマートメーター〕

〔機械式メーター〕

(14) 引込線（高圧）

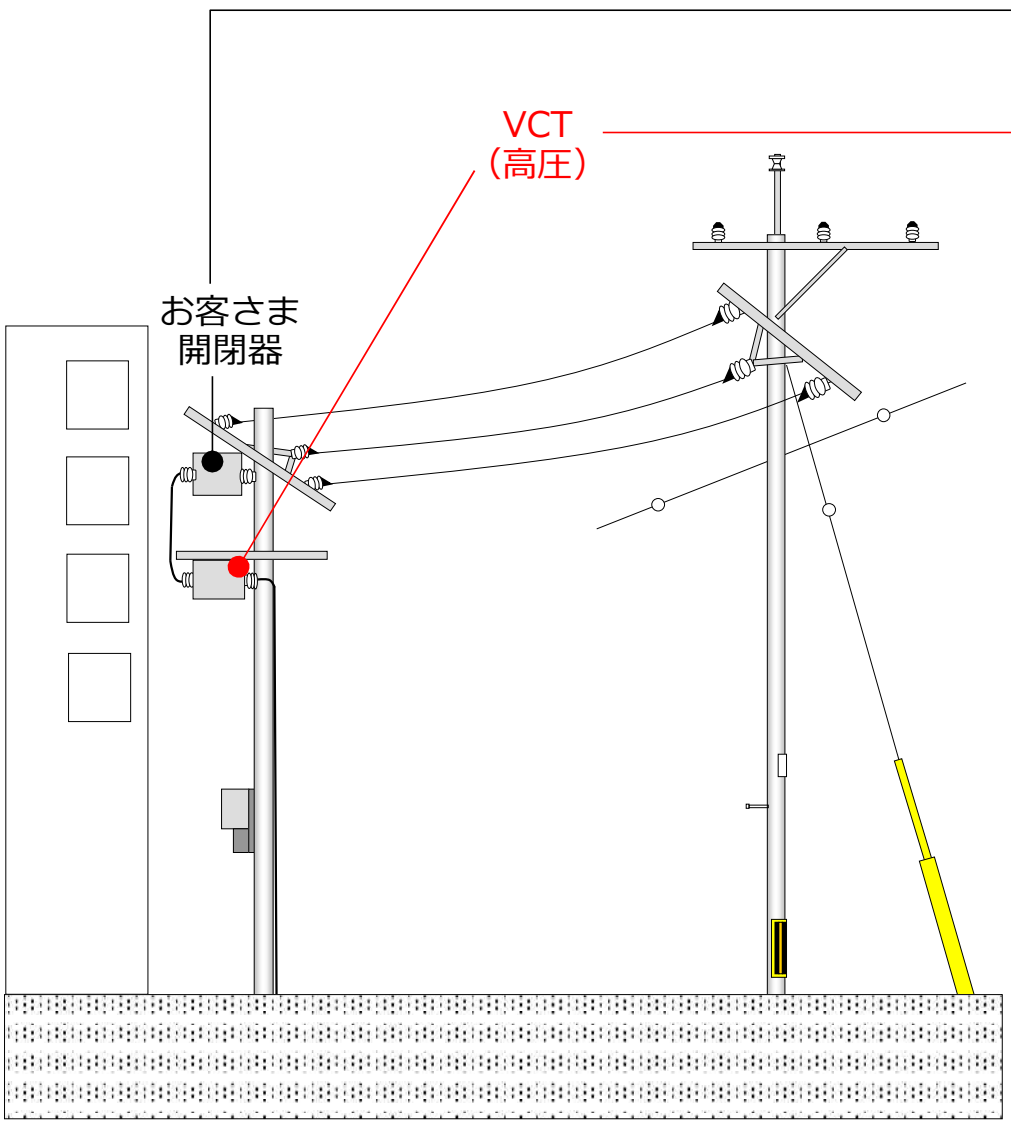
- o 引込線（高圧）とは、工場やビルなどの高圧お客さまへ電気を送るための高圧電線です。
- o 電線の色は黒色です（高圧線と同様）。
- o 装柱パターンは、水平配線と垂直配線があります。

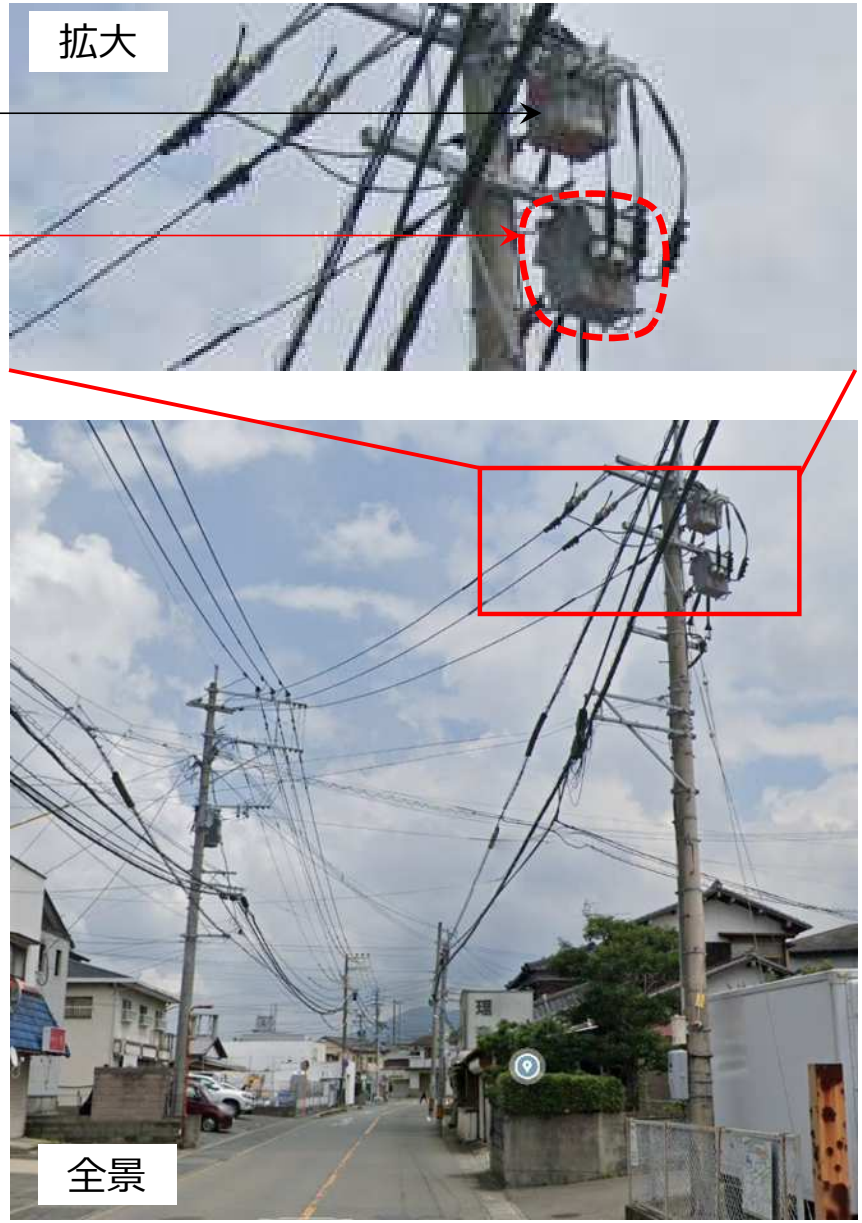




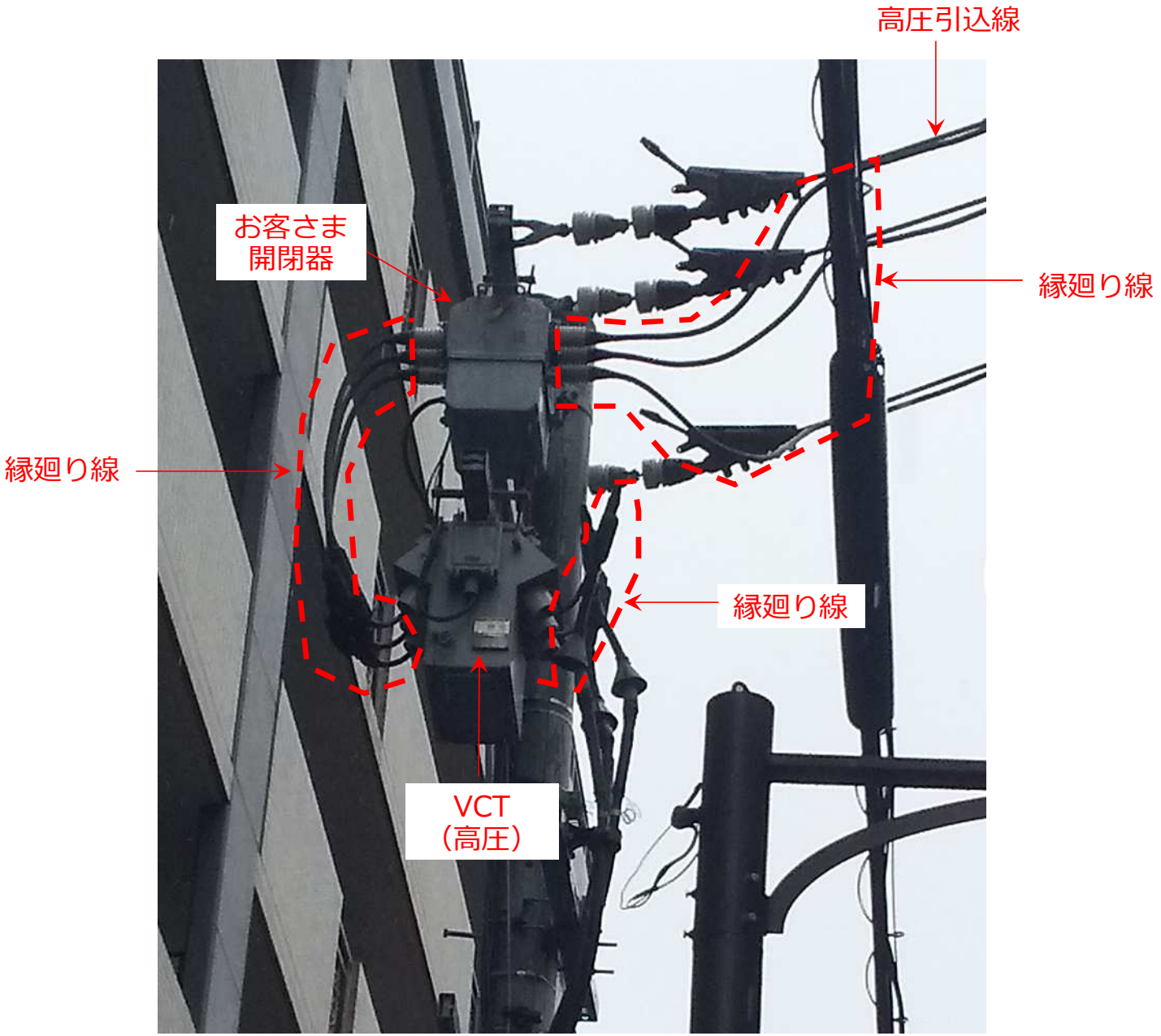
(15) VCT（高圧） 〔1/2〕

o VCT（高圧）とは、電力量計（高圧）で計測するために、高圧から低圧に電圧を下げる機器です。



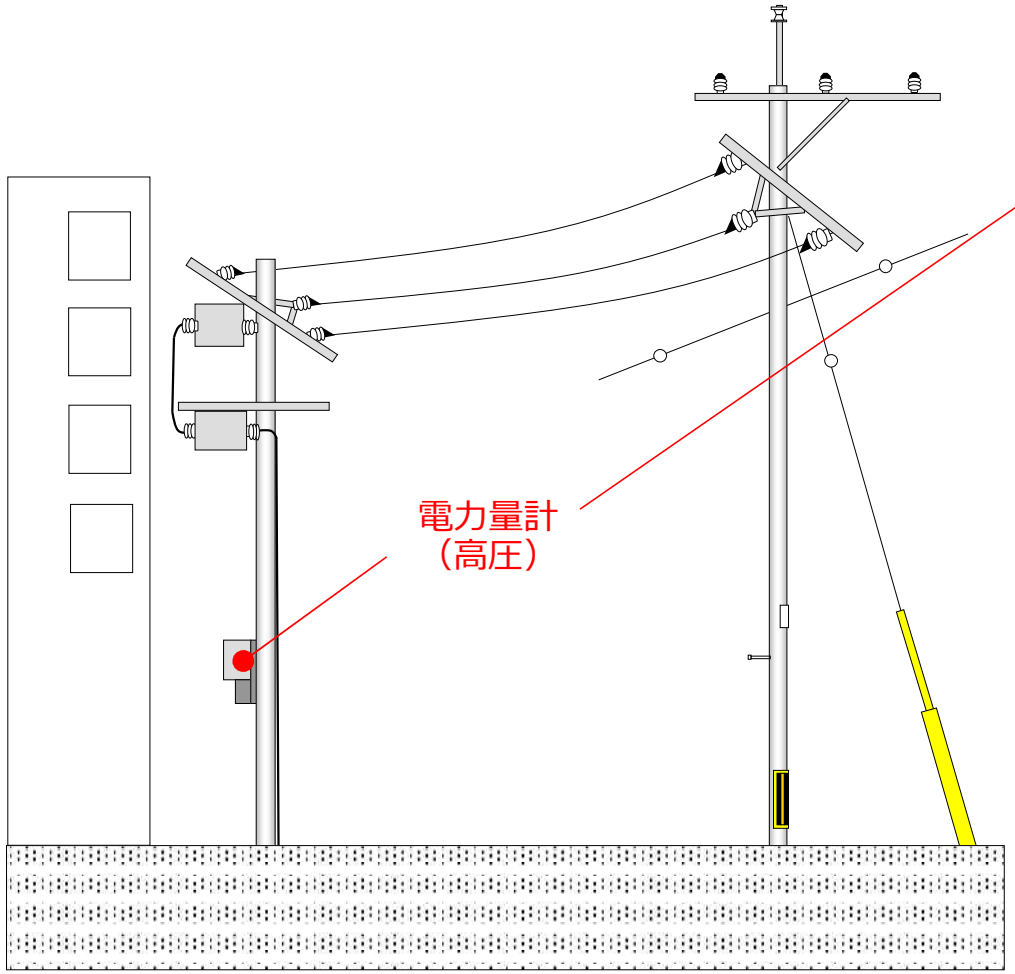


(15) VCT（高圧）〔2/2〕



(16)電力量計（高圧）

o 高圧お客さまの電気使用量を計測するための装置です。



電力量計（高圧）

〔電線の種類（まとめ）〕

電線	色	形状	設置本数
架空地線	銀色 （錆びたら茶褐色）	単線	１本
特高線 （22kV）	黒色	単線	３本
高圧線 （6kV）	黒色	単線	３本 （一部２本あり）
低圧線 （100・200V）	青色又は黒色	単線	２～４本
引込線 （100・200V）	黒・青・緑 又は、黒・緑	より線	２・３本
共同支線 普通支線	銀色 （錆びたら茶褐色）	単線	１本
通信ケーブル	黒	単線	１本